



はじめに

教務部長

こ 入学おめでとうございます。これから金城学院大学の一員として、『強く、優しく。』をスローガンに思う存分学びの楽しさを実感して下さい！大学生活を実り多いものにできるかは、皆さんひとり一人にかかっているのです。

大 学とはいうまでもなく皆さん自らが能動的に学ぶところです。学びの姿勢に関して、高校までの受動的な『こども学習』から大学での『おとな学習』へ大きな変革（パラダイムシフト）が必要なのです。こういうと少しばかり不安に思われるかもしれません。その不安を解消するために、まずは大学の学びに関する仕組みやルールを理解する必要があります。

こ れからの大学での学びは皆さんひとり一人が大きな客船で大航海をするように例えることが出来ます。この大航海を支えるために強力なエンジンと羅針盤が必要ですが、実はエンジンが履修要覧、羅針盤がシラバスなのです。まずは履修要覧をご覧下さい。皆さんの学びを支援するための仕組みやルールがこと細かに記載されていることに気付くでしょう。多少難しい用語も出てきますが、履修要覧の随所には難しい言葉の定義が Reference コラム欄に説明されていますね。大切なのは、大学ではこの履修要覧に記載されていることを皆さんが理解したものとして進んでいきます。「知らなかった・・・」や「読んでいなかった・・・」という言い訳はこれからは通用しないことを肝に銘じて下さい！

履 修要覧は全ての金城学院大学の学生にとって必要な事項をまとめた大学編と所属学部学科にとって必要な事項をまとめた学部編の2編構成になっています。いずれも金城学院大学で学ぶための重要事項が満載です。ぜひこの入学という人生にとって重要な節目に一度読んでみて下さい。なお、この履修要覧は卒業まで使用しますので、必携の書として保管して下さい！

シ ラバスもとても大切なものです。シラバスは個々の教員と皆さんの一種の契約書と言っても過言ではありません。科目名、開講学年、開講日時、担当教員名、授業概要、到達目標、授業計画や授業外学習課題だけではなく、評価基準までも明示されています。履修計画をたてる上で、シラバスを是非参考にして下さい。

最 後になりましたが、大学での学びの主体はあくまでも皆さんであり、『皆さんの学びたいという思い』を実現するために、私たち教職員は援助・サポートします。金城学院大学で真の大学生として、有意義な学生生活を送られることを心より期待しています。

【 学 部 編 】

I ポリシー

- | | |
|---------------------|------|
| 1 ディプロマ・ポリシー | 学部 1 |
| 2 カリキュラム・ポリシー | 学部 3 |

II 卒業要件単位数（詳細）

- | | |
|---------------------|------|
| 1 卒業要件単位数（詳細） | 学部 6 |
|---------------------|------|

III 学科独自の制度

- | | |
|--------------------------|------|
| 1 食環境栄養学科再試験制度について | 学部 7 |
|--------------------------|------|

IV 科目分類番号

- | | |
|--------------------|------|
| 1 科目分類番号について | 学部 8 |
|--------------------|------|

V 共通教育科目等の課程

- | | |
|---------------------|------|
| 1 共通教育科目等 課程表 | 学部 9 |
|---------------------|------|

VI 専門教育科目のカリキュラムツリーおよび課程表

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 1 カリキュラム・ツリー | 学部 19 |
| 2 生活マネジメント学科 ファイナンシャルプランナー養成コース 課程表 | 学部 22 |
| 3 生活マネジメント学科 教員・公務員養成コース 課程表 | 学部 24 |
| 4 環境デザイン学科 アパレル・ファッショングース 課程表 | 学部 27 |
| 5 環境デザイン学科 空間デザインコース 課程表 | 学部 30 |
| 6 食環境栄養学科 課程表 | 学部 33 |

VII 教免取得に関する教育課程表

- | | |
|---------------------|-------|
| 1 中高免教職課程について | 学部 35 |
| 2 栄養教諭について | 学部 47 |

VIII 各種資格

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| 1 ファイナンシャル・プランナーについて | 学部 51 |
| 2 衣料管理士（テキスタイルアドバイザー：TA）2級について | 学部 53 |
| 3 アメニティスペシャリスト（生理人類士）2級について | 学部 55 |
| 4 インテリアプランナーについて | 学部 56 |
| 5 一級建築士、二級建築士、木造建築士について | 学部 57 |
| 6 商業施設士について | 学部 59 |
| 7 管理栄養士について | 学部 60 |
| 8 食品衛生監視員及び食品衛生管理者について | 学部 62 |

1 ディプロマ・ポリシー

[1] 大学ディプロマ・ポリシー

本学では、4年（薬学部は6年）以上本学に在学し、各学科が定める卒業要件総単位数を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. キリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけている。

(思考力・実践力)

3. 身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処することができる。
4. 自ら問題を見出し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる。

(コミュニケーション力)

5. 相手の意見をきちんと聞き理解するとともに、自らの考えを適切に表現し伝えることができる。
6. 発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけている。

[2] 生活環境学部ディプロマ・ポリシー

生活環境学部では、4年以上在学し、各学科が定める卒業要件総単位数を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 生活者の視点に立ち豊かな生活を実現する知識および技能を身につけている。

(思考力・実践力)

3. 人間と環境をめぐる生活の諸課題を考究することができる。
4. 生活の諸課題の解決に資する実践力を身につけている。

(コミュニケーション力)

5. 人と環境に優しいライフスタイルについて自ら考え、その考えを適切に表現して他者に伝えることができる。
6. 他者の立場や見解を理解しつつ、身につけた専門的知識や技能に基づき問題を理解し、自らの考えや解決策を発信することができる。

[3] 生活マネジメント学科ディプロマ・ポリシー

生活マネジメント学科では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 家族生活、消費生活における課題解決に必要な専門知識、技術を身につけている。

(思考力・実践力)

3. 家族生活、消費生活の問題について、情報を活用しながら適切に分析し考察することができる。
4. 家族生活、消費生活、情報処理に関する諸学問を通じて身につけた思考力を応用し、物事を論理的に考え、分析し、判断することができる。

(コミュニケーション力)

5. 生活者の視点から「真に豊かな生活」の実現を目指して自ら考え、その考えを的確に表現して他者に伝えることができる。
6. 家族生活、消費生活上の諸課題について他者の立場や見解を理解しつつ、自らの意見を発信することができる。

[4] 環境デザイン学科ディプロマ・ポリシー

環境デザイン学科では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 豊かな人間性を身につけるとともに、豊かな生活環境の実現を支える教養を身につけている。
2. 生活環境（衣環境・住環境）の向上に必要なデザイン力と技術力を備えている。

(思考力・実践力)

3. 生活者の視点で、豊かな生活環境とは何かについて分析・考察し学問的に究明することができる。
4. 多様な生活環境の課題に対し、広い視野を持って理解し、幅広い分野で適切に提案・実践する能力を有する。

(コミュニケーション力)

5. 生活環境の向上のために、チームの一員として主体性をもって課題に取組み、自らの考えを表現し伝えることができる。
6. 実社会において他者の立場や見解を傾聴・理解し、生活環境のさまざまな課題について解決する能力を有する。

[5] 食環境栄養学科ディプロマ・ポリシー

食環境栄養学科では、4年以上在学し、128単位以上を修得し、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(知識・技能)

1. 豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 食と健康に関する幅広い専門分野を横断的に理解する力を身につけている。
3. 食と健康を総合的に管理する能力を身につけている。

(思考力・実践力)

4. 健康維持・増進や疾病予防に関する問題点を科学的に究明し、専門知識を駆使して問題点を解決することができる。
5. 食生活の改善により健康な生活を送る力を養う方法を企画、提示することができる。

(コミュニケーション力)

6. あらゆる年齢層の集団および個人（健常者・傷病者）に対して、食と健康の問題点やその解決策に関する情報を適切に伝えることができる。
7. 食と栄養の専門家として人間の生活と健康に関わる他分野の専門家と協力し、暮らしにおける食の重要性を発信することができる。

2 カリキュラム・ポリシー

[1] 大学カリキュラム・ポリシー

1. 本学では、学生がキリスト教的価値観を基盤として豊かな人間性を支える教養を身につけるように、全学共通カリキュラムである「共通教育科目」(1～4 (薬学科以外の学科) / 1～6 年次 (薬学科)、必修および選択必修として30単位、ただし外国語コミュニケーション学科は22単位、音楽芸術学科は28単位、薬学科は36単位) を設置する。

具体的には、「I 建学の精神を学ぶ科目」(金城アイデンティティ科目)として「①キリスト教」、「②女性」、「③国際理解」の科目群を置き、建学の精神を具現化する。

「II 現代社会の教養の基礎となる科目」として「④教養科目」を置き、人間としてのあり方や生き方に関して考える機会を提供するとともに、社会人の基礎力を養成する。

「III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目」として「⑤英語教育科目」、「⑥外国語教育科目」を置き、異文化に生きる人々とのコミュニケーション手段と自文化を相対化する視点を獲得させる。同時にグローバル社会に生きるために必要な心の姿勢を身につけさせる。「⑦情報教育科目」を置き、情報化社会で生きていくために必要となる知識や技能を身につけさせる。「⑧キャリア開発教育科目」を置き、仕事や職業だけではない、人生としてのキャリアを重視した教育を行い、人生を積極的に切り開く主体性を培う。

「IV スポーツを通じて健康増進を図る科目」として「⑨S&E教育科目」を置き、生涯にわたっての健康づくりを支援する。

「V 実践から学ぶ科目」として「⑩海外研修科目」、「⑪学生プロジェクト科目」を置き、実体験を通した学習の重要性を理解するとともに、能動的に学ぶ姿勢を身につけさせる。

2. 学生が教員職員免許状授与の所要資格を得られるように、「教職に関する科目」を設置する。

3. 外国人留学生が日本語運用能力の向上を図り、日本文化について幅広く学習できるように、「日本語科目・日本事情に関する科目」を設置する。

4. 学生が新しい時代にふさわしい専門的知識や技能を身につけるように、各学部・学科に「専門教育科目」を設置し、カリキュラム・ポリシーは別に定める。

5. 学生が興味に応じて幅広く学習できるように、共通教育科目および他学部他学科の専門科目を自由に履修できる「自由履修制度」(1～4 年次選択28単位、音楽芸術学科、多元心理学科は26単位、食環境栄養学科は 3 単位、国際情報学科は20単位、薬学科を除く) を置き、積極的な学習を奨励する。

6. 学生が身につけた知識や技能を生かし、諸問題に対処する力を養うように、「演習科目」を設置する。

7. 学生が相手の意見をきちんと理解するとともに、自らの考えを適切に伝えることができる力を養うように、少人数クラスの「演習科目」を通じて、プレゼンテーションとディスカッションを重視した教育を行う。

8. 学生が自ら問題を発見し、適切な分析と考察に基づいて解決策を見いだし、実践に移すことができる力を養うように、授業において課題を課し、その評価を行う。

9. 学生が発信するべき自らの意見や立場について常に考える姿勢を身につけるように、「専門教育科目」、「共通教育科目」および「演習科目」を通じて積極的かつ発展的に考えるよう指導する。

[2] 生活環境学部カリキュラム・ポリシー

生活環境学部では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が、豊かな人間性を支える教養を身につけるように、全学共通のカリキュラムである「共通教育科目」(1～4 年次、必修および選択28単位)を通じて、社会人基礎力をはじめ、社会で生きていくために必要となる幅広い知識や技能を教育する。

2. 学生が、人間と環境をめぐる生活の諸課題を考究することができるよう、「生活環境学基礎科目」(2年～3年次、選択)、「学科基礎科目」、「学科展開科目」、「研究演習科目」(1年～4年次、必須および選択) を設置し、課題を課して教育し、さらに学生の積極的な学習を奨励する。

3. 学生が、生活の諸課題の解決に資する実践力を身につけることができるよう、「生活環境学基

基礎科目」、「学科基礎科目」、「展開科目」および「研究演習科目」を通じて、自らの知識や技能を用いて問題に対処できるように指導を行う。

4. 学生が、人と環境に優しいライフスタイルについて自ら考え、その考えを適切に表現して他者に伝えることができるよう、「展開科目」と「研究演習科目」を通じて指導する。
5. 他者の立場や見解を理解しつつ、身につけた専門的知識や技能に基づき問題を理解し、自らの考え方や解決策を発信することができるよう、「研究演習科目」を通じて、プレゼンテーションとディスカッションの指導を行う。

[3] 生活マネジメント学科カリキュラム・ポリシー

生活マネジメント学科では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が、生活者の視点から「真に豊かな生活」を実現する知識・技能を身につけるように、必修科目として、1年次に「生活経済学(1)」「生活と法律(1)」「生活統計学(1)」「情報処理演習(1)」、2年次に「生活経営学」「家族関係学(1)」「消費者政策論(1)」「生活設計論」「情報処理論」「情報処理演習(2)」、3年次に「消費者教育論」「生活情報システム論」「生活調査法(1)」「家族福祉学」「生活情報論」を設置し教育を行う。
2. 学生が家族生活、消費生活における課題解決に必要な専門知識、技術を身につけるように、1年次から4年次までの「展開科目」(10単位必修20単位選択必修)および「研究演習科目」(5単位必修)を設置し、課題を課して教育し、さらに、学生の積極的な学習を奨励する。
3. 学生が、家族福祉、消費者福祉における諸課題の解決に資する実践力を身につけることができるよう、「展開科目」および「研究演習科目」を通じて、自らの知識や技能を用いて問題に対処できるように指導を行う。
4. 「ファイナンシャルプランナー養成コース」と「教員・公務員養成コース」という2つのコースの履修モデルをもとに、学生が、ファイナンシャルプランナー(2、3年次展開科目、8単位選択)その他の資格を取得し、将来役立てることができる実践力を身につけるように指導する。
5. 学生が自らの考え方を充分に表現し伝えるコミュニケーション力を養うように、1年次から4年次までの必修科目である「研究演習科目」を通じてプレゼンテーションとディスカッションの技術を学ばせるとともに実務的な指導も行う。

[4] 環境デザイン学科カリキュラム・ポリシー

環境デザイン学科では、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施する。

1. 生活環境の向上に必要な教養とデザイン力・技術力を備えるように、「学科基礎科目」の中から「デザイン基礎実習(1)」(1年次 2単位)、「デザイン基礎実習(2)」(1年次 2単位)、「色彩学」(1年次 2単位)、「色彩学演習」(1年次 1単位)を必修とし、「造形デザイン実習A」(2年次 2単位)、「造形デザイン実習B」(2年次 2単位)、「造形デザイン実習C」(3年次 2単位)を選択必修として、デザイン表現の基礎を教育する。
2. 生活者の視点で豊かな生活環境とは何かについて分析・考察し学問的に究明することができるよう、「展開科目」を設けている。2つの履修コースを設置し、アパレル・ファッショングースでは必修19単位、選択21単位の計40単位、空間デザインコースでは必修39単位、選択5単位の合計44単位、その他に専門教育科目12単位を設け、必修・選択の組み合わせによって幅広い知識の修得が可能となっている。
3. 多様な生活環境の課題に対し広い視野を持って理解し、幅広い分野で適切に提案・実践する能力を有するように、「学科基礎科目」の中に、「ユニバーサルデザイン論」(1年次 2単位)、「人間工学」(3年次 2単位)などの科目を設け、いずれの履修コースの学生も修得できるようになっている。また選択科目として「特別研修」(1~4年次 2単位)「学外研修」(1~4年次 1単位)を設け、通常の学内の授業では得られない機会を通じて、デザイン力・表現力・技術力の向上を図っている。
4. 生活環境のさまざまな課題について解決する能力を有する力を養うとともに、より専門的な知識を有し、社会で活躍できる能力を育成するために、「ファッショングビジネス演習」(3年次 1単位)、「アパレル品質管理演習」(3年次 1単位)、「建築学演習」(4年次 1単位)、「室内環境学演習」(4年次 1単位)、「建築構造力学演習」(3年次 1単位)の専門演習科目をコース別に設け、積

極的な資格取得を支援している。

5. 実社会において他者の立場や見解を傾聴・理解し、チームの一員として主体性をもって課題に取り組み、自らの考えを表現し伝えることができるよう、「研究演習科目」の中から「入門演習」(1年次 1単位)、「基礎演習」(2年次 1単位)、「環境デザイン演習」(3年次 1単位)を必修科目として設けている。

[5] 食環境栄養学科カリキュラム・ポリシー

食環境栄養学科では、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施する。

1. 学生が豊かな人間性を育むために「生活環境学基礎科目」を通じて幅広い知識や教養を高める。
2. 学生が食と健康に関する幅広い専門分野を横断的に理解する基礎力を身につけるために「学科基礎科目」(1年次 必修4単位、1~3年次 選択2単位、4年次 必修4単位)を設置するとともに、1年次から必修科目である「専門基礎分野科目」(13単位)や「専門分野科目」(3単位)を置く。
3. 学生が食と健康を総合的に管理する能力を身につけるために「専門基礎分野科目」(1~3年次 必修38単位)や「専門分野科目」などの講義科目を1年生より系統立てて設置するとともに、「実習・実験科目」へと科目の内容を発展させて実践的な教育を行う。
4. 学生が健康の維持・増進や疾病予防の現代的課題を科学的に究明するように、さまざまな課題を取り組む「実習科目」を設ける。
5. 学生が食生活の改善により健康な生活を送る力を養う方法を指導することができる力を養うために、2年次必修科目「応用栄養学総論」(2単位)や「栄養アセスメント論」(2単位)、「臨床栄養管理論」(2単位)「疾病別栄養管理論」(2単位)を設けるとともに、それらの「実習科目」(2・3年次 必修3単位)の中で内容的に発展させる。さらに「臨地実習」(3・4年次 必修4単位)を通じて管理栄養士の業務を実際に学ばせ、食生活改善の企画、提示の力を養う。
6. 学生が社会や個人に対して食と健康の問題点やその解決策について適切に伝えることができる力を養うために、「栄養教育原論」「栄養教育各論」「栄養カウンセリング論」(2・3年次 必修6単位)や「実習科目」(3年次 必修2単位)を通じて効果的なプレゼンテーションの技術を指導する。
7. 学生が食と栄養の専門家として人間の生活と健康に関わる他分野の専門家と協同し、暮らしにおける食の重要性を発信することができるため、「専門分野科目」(1~4年次 必修38単位)や「栄養総合演習」(3年次 必修2単位)、「臨地実習」(3・4年次 必修4単位)を通じて、集団または個人に対する栄養教育の必要性をつかみ、社会とのかかわりの中で問題を解決する能力を育む。

1 卒業要件単位数（詳細）

		生活マネジメント		環境デザイン		食環境 栄養	
		ファイナンシャルプランナー 養成コース	教員・公務員 養成コース	アパレル・ ファッショング コース	空間デザイン コース		
卒業要件		128	128	128	128	128	
共通教育科目		30	30	30	30	30	
必修	①キリスト教	キリスト教学(1)	2	2	2	2	2
		キリスト教学(2)	2	2	2	2	2
	⑤英語教育科目	英語コミュニケーションA(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションA(2)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションB(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションB(2)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションC(1)	1	17	17	17	17
		英語コミュニケーションC(2)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションD(1)	1	1	1	1	1
		英語コミュニケーションD(2)	1	1	1	1	1
	⑦情報教育科目	情報リテラシー	2	2	2	2	2
選択必修	金城アイデン ティティ科目	キャリア開発A	2	2	2	2	—
		キャリア開発B	1	1	1	1	1
		①キリスト教	①～②のテーマから 2 科目選択 （「キリスト教(1)(2)」を除く）	4	4	4	4
		②女性		4	4	4	4
		③国際理解		4	4	4	4
	④教養科目	選択	7	7	7	7	9
	⑥外国語教育科目						
	⑦情報教育科目（「情報リテラシー」、「IT活用H」を除く）						
	⑧キャリア開発教育科目（「キャリア開発A」、「キャリア開発B」を除く）						
	⑩海外研修科目						
	⑪学生プロジェクト科目						
	⑨S&E教育科目から 2 科目選択（「スポーツ・アンド・エクササイズH」を除く）						
専門教育科目		70	70	70	70	70	95
学科基礎科目		28	28	13	9	10	
展開科目		30	30	40	44	82	
研究演習科目		5	5	5	5	3	
自由選択（上記以外の専門教育科目）		7	7	12	12	—	
自由履修		28	28	28	28	3	

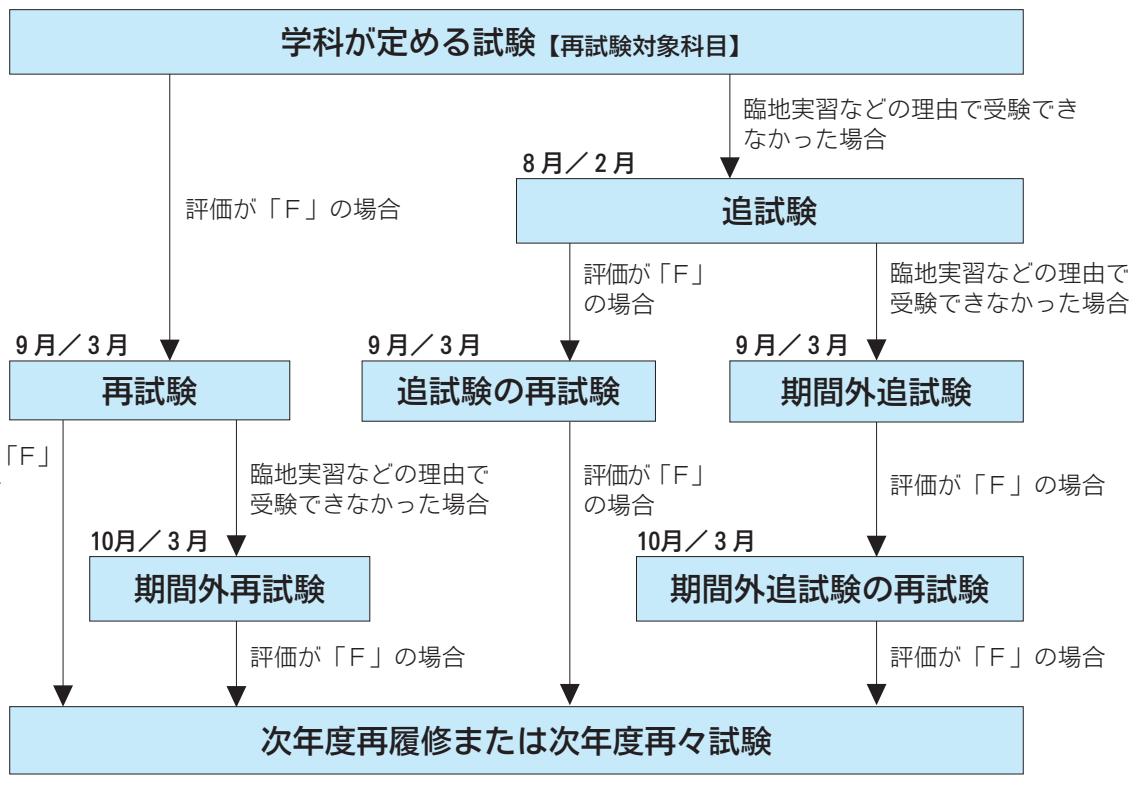
1 食環境栄養学科 再試験制度について

食環境栄養学科では、管理栄養士課程に関わる必修科目（対象科目は、履修要覧P.学部60を参照。ただし「栄養総合演習」と「臨地実習」を除く）について、学科が定める試験で評価が「F」の学生を対象に、再試験を実施します。また追試験においても、同様に再試験を実施します。

再試験等の日程は教務関係事項スケジュール表（別冊）で確認してください。

また、「管理栄養士特論A」と「管理栄養士特論B」は、管理栄養士課程に関わる必修科目ではありませんが、再試験を実施します。詳細については、授業内で案内します。

【再試験フローチャート】



★再試験対象者・再試験時間割：K-PORTで発表

★再試験の評価が「F」の場合：次年度再履修（次年度の再履修が不可能な場合、再試験に対する再試験（再々試験）の受験を認める。）

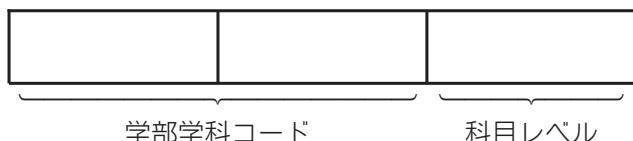
★再試験（追試験の再試験、期間外追試験、期間外再試験を含む）受験のための手続き（試験料納入方法を含む）：K-PORTで通知

★再試験料：3,000円／1科目

★卒業年度に限り、前期再試験の評価で「F」であった科目：4年次対象再試験制度の対象（4年次対象再試験についてはP. 大学12参照）

1 科目分類番号について

科目分類番号は数字3桁でカリキュラムにおける当該科目の位置づけを示したものです。
履修の際の参考にしてください。



学部学科コード

共通教育：10

生活環境学部共通：30

生活マネジメント学科：33

環境デザイン学科：34

食環境栄養学科：35

科目レベル

入門：1 科目内容レベルが導入もしくは入門に位置づけられる科目

基礎：2 主に基礎として学ぶべき科目等

発展：3 応用や発展の内容を含む科目等

※科目分類番号と開講基準年次は違います。例えば3桁目のレベルが3に設定されても、開講基準年次が1年次に設定されれば1年生でも履修できます。反対にレベルが1や2に設定されても開講基準年次が3年次になっていれば1・2年生は履修することができません。

1 共通教育科目等 課程表

科目名の★は必修、■は選択必修

I 建学の精神を学ぶ科目（金城アイデンティティ科目）

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号				開講基準年次及び単位数
			1年	2年	3年	4年	
① キリスト教	キリスト教学(1)★	建学の精神であるキリスト教と聖書の世界について学ぶ	101	2			
	キリスト教学(2)★		101	2			
	聖書の読み方■	「聖書」の執筆者、書かれた目的、内容を学ぶ	101	2			
	聖書の女性観■	聖書における女性の描き方を通して女性観を学ぶ	101	2			
	キリスト教と日本■	日本におけるキリスト教の歴史と現代事情を学ぶ	101	2			
	現代世界とキリスト教■	世界各地域のキリスト教事情を学ぶ	101	2			
	医療とキリスト教精神■	医療従事者から医療とキリスト教の精神の関係を学ぶ	101	2			
	福祉とキリスト教■	福祉の各分野とキリスト教の関わりについて学ぶ	101	2			
	キリスト教文化学入門■	中世のキリスト教が生み出した祝祭日の歴史を学ぶ	101	2			
	音楽とキリスト教■	理論・解説と実践・歌唱により、賛美歌を多面的に学ぶ	101	2			
	美術とキリスト教■	キリスト教と西洋美術の関わりについて学ぶ	101	2			
	文学とキリスト教■	文学への影響、また聖書の邦訳の問題について学ぶ	101	2			
② 女性	いのち・こころ■	誕生から死まで、困難をバネに積極的に生きることを考える	101	2			
	歴史の中の女性■	19世紀の英國と米国の歴史に登場する女性について学ぶ	101	2			
	世界の女性問題■	国際社会における女性の人権について考える	101	2			
	福祉と女性■	女性が抱える社会福祉の問題を通して生き方を考える	101	2			
	女性と文学■	文学や映画に登場する女性を新たな視点から考察する	101	2			
	男女共同参画社会■	従来の男女観、国際比較等から日本女性の状況を考える	101	2			
学部編 履修規程	性差の科学■	ジェンダーと人間行動・偏見・コミュニケーションを学ぶ	101	2			
	履修規程						
	ポリシー						
	卒業要件						
	学部編 科目分類番号						
	制度独自の						
	等共通教育科目						
	専門教育科目の カリキュラムシート						
	および課程表						
	教免取扱い						

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
③国際理解	現代世界の形成 ■	第二次世界大戦後の世界と今日の国際情勢について学ぶ	101	2			
	世界の多様な文化 ■	異なる地域に住む人々の社会や文化、宗教的背景を学ぶ	101	2			
	世界の社会問題 ■	日本を取り巻く国際情勢とその問題について学ぶ	101	2			
	多文化共生社会 ■	多民族・多文化共生社会の実現について考える	101	2			
	Topics in Comparative Culture ■	外国と比較した日本文化を基本的な英語で学ぶ	101	2			
	英語圏の生活と文化 ■	英語圏の地理、歴史、文化、生活について学ぶ	101	2			
	ヨーロッパの生活と文化 ■	今日のヨーロッパ社会とそこで暮らす人々について学ぶ	101	2			
	アジアの生活と文化 ■	中国、日本、朝鮮半島の生活や文化からその影響と交流を学ぶ	101	2			
	異文化コミュニケーション ■	異文化間で起こる様々な問題を解決する能力を培う	101	2			
	海外留学準備講座 ■	留学への心構えや留学先の文化・社会的背景を学ぶ	101	1			

II 現代社会の教養の基礎となる科目

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
A・Life	東洋哲学	■ 現代日本と東洋の伝統思想	101	2			
	西洋哲学	■ 生きることを考える哲学	101	2			
	倫理学	■ 現代社会における倫理	101	2			
	いのちの倫理	■ いのちを生かす倫理学	101	2			
	健康科学	■ 健康管理のキーポイントを探る	101	2			
	心理学	■ こころの動きを理解する	101	2			
	人間発達学	■ 発達の筋道を学ぶ	101	2			
	カウンセリング入門	■ 心の問題理解とその援助法	101	2			
	ロジカルシンキング入門	■ 問題解決の方法を考える	101	2			
	教職入門	■ 教職の意義と役割を理解する	101	2			
	学校と教育の歴史	■ 教育の歴史と思想を探る	101	2			
	発達と学習	■ 子どもの発達と学習過程を捉える	101	2			
(4)教養科目	教育相談	■ 学校における心のケアを考える	101	2			
	生命科学	■ いのちの謎にせまる	101	2			
	生物学	■ 動物の行動を科学する	101	2			
	環境学	■ 環境問題入門	101	2			
	薬学	■ くすりと体を科学する	101	2			
	健康とサプリメント	■ サプリメント利用の豆知識	101	2			
	化粧品学入門	■ 化粧品まるわかり	101	2			
	食品栄養学 <small>食環は履修不可</small>	■ 食品の栄養素を学ぶ	101	2			
	生活と科学	■ 身の回りを科学する	101	2			
	生活と衣服 <small>環デは履修不可</small>	■ 衣服まるわかり	101	2			
	生活と住まい <small>環デは履修不可</small>	■ 住まい方を考える	101	2			
	数学	■ 数学基礎入門	101	2			
B・Nature	統計学	■ 統計まるわかり	101	2			
	情報学	■ 情報まるわかり	101	2			

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
④教養科目	文化人類学	■ 人類の多様な生活と文化	101	2			
	日本文化論	■ サブカルチャーから学ぶ日本文化	101	2			
	日本文学論	■ 「少女」の眼から見る近現代日本文学	101	2			
	日本史入門	■ エピソードで学ぶ日本史	101	2			
	日本地理	■ 47都道府県を探訪する	101	2			
	日本語学	■ 日本語を振り返ってみよう	101	2			
	実践日本語	■ 文章と文書の書き方	101	2			
	日本美術史	■ 日本美術鑑賞入門	101	2			
	Topics in Contemporary Japan	■ 英語で学ぶ現代日本の諸問題	101	2			
	西洋文学論	■ 西洋文学に見るロマンス	101	2			
	西洋史入門	■ エピソードで学ぶ西洋史	101	2			
	西洋美術史	■ 西洋美術鑑賞入門	101	2			
	ファンションの歴史 ※マネは履修不可	■ デザインの変遷とビジネスの関係	101	2			
	美術創作	■ 静物デッサン入門	101	1			
D・Society	法学入門	■ 法律と人権を学ぶ	101	2			
	日本国憲法	■ 憲法を理解する	101	2			
	政治学入門	■ 政治の仕組みを知る	101	2			
	行政学入門	■ 行政の仕組みを知る	101	2			
	経済学入門	■ お金の動きを知る	101	2			
	経営学入門	■ ビジネスの基礎を学ぶ	101	2			
	マーケティング入門	■ ヒット商品のつくり方を学ぶ	101	2			
	消費者と市民社会 ※マネは履修不可	■ 消費行動を通して社会を変える	101	2			
	社会学入門	■ 社会を見る目を養う	101	2			
	名古屋学	■ 名古屋の魅力を発見する	101	2			
	平和学入門	■ 平和の意義を考える	101	2			

III 現代社会に必要なリテラシーを身につける科目

※修得単位について…⑤英語教育科目における英語コミュニケーションE・F・Gの修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

⑥外国語教育科目における、英語英米文化学科生の必要最低修得単位（8単位）を越えて修得した単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑤英語教育科目	英語コミュニケーションA(1) ★	Speaking・Writing	101	1			
	英語コミュニケーションA(2) ★	Speaking・Writing	101	1			
	英語コミュニケーションB(1) ★	CALL・Reading	101	1			
	英語コミュニケーションB(2) ★	CALL・Reading	101	1			
	英語コミュニケーションC(1) ★	Speaking・Presentation	102		1		
	英語コミュニケーションC(2) ★	Speaking・Presentation	102		1		
	英語コミュニケーションD(1) ★	Reading・Listening	102		1		
	英語コミュニケーションD(2) ★	Reading・Listening	102		1		
	英語コミュニケーションE(1)	Integrated English（総合英語）	103		1		
	英語コミュニケーションE(2)	Integrated English（総合英語）	103		1		
⑥外国語教育科目	英語コミュニケーションF	検定試験対策（TOEIC対策）	103		1		
	英語コミュニケーションG	検定試験対策（TOEIC対策）	103		1		
	ドイツ語(1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	ドイツ語(2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	ドイツ語(3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	ドイツ語(4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	ドイツ語会話(1) ■	初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	ドイツ語会話(2) ■	初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	ドイツ語会話(3) ■	中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	ドイツ語会話(4) ■	中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
フランス語	フランス語(1) ■	初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	フランス語(2) ■	初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	フランス語(3) ■	中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	フランス語(4) ■	中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
⑥外国語教育科目	フランス語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	フランス語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	フランス語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	スペイン語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	スペイン語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	スペイン語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	スペイン語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	スペイン語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	中国語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	中国語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	中国語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	中国語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	中国語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	中国語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語(1)	■初級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(2)	■初級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語(3)	■中級1(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語(4)	■中級2(主として日本人教員による文法・読解の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語会話(1)	■初級1(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語会話(2)	■初級2(主として外国人教員による会話の授業)	101	1			
	韓国・朝鮮語会話(3)	■中級1(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		
	韓国・朝鮮語会話(4)	■中級2(主として外国人教員による会話の授業)	102		1		

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
(7)情報教育科目	情報リテラシー★	コンピュータ力を身につける	101	2			
	IT活用A■	3次元コンピュータ・グラフィックス	102		2		
	IT活用B■	動画作成編集	102		2		
	IT活用C■	プログラミング入門	102		2		
	IT活用D■	Webページデザイン	102		2		
	IT活用E■ <small>生マネは履修不可</small>	コンピュータ統計入門	102		2		
	IT活用F■	デスクトップ・パブリッシング	102		2		
	IT活用G■	コンピュータ・デザイン	102		2		
	IT活用H■ <small>生活環境学部は履修不可</small>	コンピュータと薬学	102		2		
(8)キャリア開発教育科目	キャリア開発A★ <small>食環は履修不可</small>	キャリア開発の意義と方法	101	2			
	キャリア開発B★	マナー&コミュニケーション	101	1			
	キャリア開発C■	自分らしい生き方を設計する	102		2		
	キャリア開発D■	いきいき働く女性たち	102		2		
	キャリア開発E■	大企業のトップに学ぶキャリアの本当の意味	103			2	
	キャリア開発F■	将来の職業生活に備える	103			2	
	キャリア開発G(1)■	インターンシップ準備	102		2		
	キャリア開発G(2)■	インターンシップ	103			2	

IV スポーツを通じて健康増進を図る科目

※修得単位について…⑨S & E教育科目における「スポーツ・アンド・エクササイズH」の修得単位については、自由履修の単位に含まれます。

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号			
			1年	2年	3年	4年
⑨ S & E 教育科目	スポーツ・アンド・エクササイズA ■	テニス	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズB ■	ゴルフ	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズC ■	バドミントン	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズD ■	卓球	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズE ■	バレー・ボール	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズF ■	ライトスポーツ	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズG ■	野外スポーツ実習	101	1		
	スポーツ・アンド・エクササイズH	ヘルシーエクササイズ	102			1

V 実践から学ぶ科目

科目区分	授業科目	副題・内容	科目分類番号			
			1年	2年	3年	4年
⑩ 海外研修科目	海外研修 A ■	北米での学習プログラム	103	2		
	海外研修 B ■	イギリスでの学習プログラム	103	2		
	海外研修 C ■	オーストラリアでの学習プログラム	103	2		
	海外研修 D ■	中国での学習プログラム	103	2		
	海外研修 E ■	海外のあらゆる地域での学習プログラム	103	2		
⑪ 学生プロジェクト科目	キャリアプロジェクト ■	社会に参加する	103	2		
	里山プロジェクト ■	里山から見る日本の姿	103	2		
	KIDSセンタープロジェクト ■	KIDSセンター活動に参加する	103	2		
	ボランティアプロジェクト ■	ボランティアを実践する	103	2		
	公募プロジェクト ■	慰問演奏を行おう	103	2		

教職に関する科目（中・高・栄養免許）

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
教職入門	101	2			
学校と教育の歴史	101	2			
発達と学習	101	2			
教育制度論	102		2		
障害者教育論	102		2		
教育課程論	102			2	
国語科指導法A	102		4		
国語科指導法B	102			2	
国語科指導法C	102			2	
英語科指導法A	102		4		
英語科指導法B	102			2	
英語科指導法C	102			2	
家庭科指導法A	102		4		
家庭科指導法B	102			2	
家庭科指導法C	102			2	
社会科・地理歴史科指導法A	102		2		
社会科・地理歴史科指導法B	102			2	
社会科・公民科指導法A	102		2		
社会科・公民科指導法B	102			2	
情報科指導法	102		4		
福祉科指導法	102		4		
書道科指導法	102		4		
音楽科指導法A	102		4		
音楽科指導法B	102			2	
音楽科指導法C	102			2	

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
理科指導法A	102				4
理科指導法B	102				2
理科指導法C	102				2
道徳教育の理論と方法	102			2	
特別活動の指導法	102			2	
教育方法の理論と実践	102		2		
教育の方法と技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	102		2		
生徒指導の理論と方法	102			2	
教育相談	101		2		
教育実習A	103				5
教育実習B	103				3
教職実践演習(中高)	103				2
教職実践演習(栄養教諭)	103				2

日本語科目・日本事情に関する科目

外国人留学生以外、履修不可

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本語科目	日本語 2 1 1	102	1
	日本語 2 1 2	102	1
	日本語 2 1 3	102	1
	日本語 2 1 4	102	1
	日本語 2 1 5	102	1
	日本語 2 2 1	102	1
	日本語 2 2 2	102	1
	日本語 2 2 3	102	1
	日本語 2 2 4	102	1
	日本語 2 2 5	102	1
	日本語 3 1 1	103	1
	日本語 3 1 2	103	1
	日本語 3 1 3	103	1
	日本語 3 1 4	103	1
	日本語 3 1 5	103	1
	日本語 3 2 1	103	1
	日本語 3 2 2	103	1
	日本語 3 2 3	103	1
	日本語 3 2 4	103	1
	日本語 3 2 5	103	1
	日本語 4 1 1	103	1
	日本語 4 1 2	103	1
	日本語 4 2 1	103	1
	日本語 4 2 2	103	1

科目区分	授業科目	科目分類番号	単位数
日本事情に関する科目	日本事情 A	102	2
	日本事情 B	102	2
	日本事情 C	102	2
	日本事情 D	102	2
	インディペンデント・スタディ	103	2

1 カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーとは、専門教育科目のカリキュラムにおいて、学生が卒業までに身につけるべき知識・能力を得るために授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性を系統的に可視化したもので。カリキュラムの年次進行、授業科目間のつながりなど、カリキュラムの体系性が一望できるようになっています。

生活マネジメント学科

青字は必修科目

		1 年	2 年	3 年	4 年
学科基礎科目		生活統計学(1) 生活経済学(1) 生活と法律(1) 情報処理演習(1)	生活経営学 家族関係学(1) 情報処理演習(2) 消費者政策論(1) 生活設計論 情報処理論	消費者教育論 生活情報システム論 生活調査法(1) 家族福祉学 生活情報論	
コース 共通科目	生活環境学 基礎科目		衣生活概論 保育学(実習及び家庭看護を含む) 住居学概論(製図を含む)	食物学(栄養学・食品学を含む) 家庭電気・機械 被服製作実習 調理実習	
	プログラミング基礎		Webデザイン演習 生活統計学(2) 生活と法律(2) 経済学概論 インターネットビジネス ライフコース論 法律学概論 ソーシャルネットワークサービス論	消費者政策論(2) 家族法 情報通信ネットワーク論 マルチメディア表現技術 モデル化とシミュレーション 簿記基礎 ユニバーサルデザイン論 情報倫理論 インターネットプログラミング	
			衣生活マネジメント論 住生活マネジメント論 食生活マネジメント論	生活マネジメント特論A～C	
展開科目 養成コース 基礎科目*	コース 基礎科目*	消費者心理学	生活経済学(2) 消費マーケティング論	消費者法 商法概論	
	コース 選択科目	消費者商品学	消費者行動論 消費生活コンサルティング論 ファイナンシャルプランニングA ファイナンシャルプランニングB 消費財流通論	ファイナンシャルプランニングC ファイナンシャルプランニングD 消費者運動論 生活リスクマネジメント論 ビジネス法務 環境ビジネス論 建築法規 金融商品学	
	コース 基礎科目*	共生社会論	男女共同参画社会論 情報社会論(1)	データベース技術 生活調査法(2)	
養成 教員・ 公務員 コース 基礎科目	コース 選択科目	政治学概論	情報職業論 刑法 家族心理学 子どもの発達と生活環境 介護福祉論	情報社会論(2) 家族関係学(2) 行政学 行政法 公的扶助論 障害者教育論 国際社会と法 家族支援論	
		入門演習	基本演習(1)	基本演習(2)	専門演習 卒業論文

* 各コースの必修科目

環境デザイン学科

	1年	2年	3年	4年
学科基礎科目	デザイン基礎実習(1)・(2) 色彩学 色彩学演習 ユニバーサルデザイン論	造形デザイン実習A・B カラーコーディネート特別演習	造形デザイン実習C 人間工学 ユニバーサルデザイン特論 消費マーケティング論 消費者心理学 消費財流通論 インターネットビジネス	
展開科目	生活環境学基礎科目	衣生活概論 保育学（実習及び家庭看護を含む）	現代家族論（家族関係学を含む） 生活経営学（家庭経済学を含む） 食物学（栄養学、食品学を含む） 住居学概論（製図を含む） 家庭電気・機械 被服製作実習 調理実習	
	アパレル系科目	アパレル構成学 ファッショントピック	着心地の科学 テキスタイル材料学(1)・(2) ファッショントピック	アパレル生産システム 服飾文化史 ファッショントピック調査法 生活情報論 ファッショントピック演習 アパレル品質管理演習
	空間デザイン系科目	人体とパターンメイキング ファッショントピック	アパレル環境学実験 ファッショントピック画(1) バーチャルファッショントピックA・B ドレーピングの基礎 ファッショントピック(2)・(3)	テキスタイル材料学実験 ファッショントピック画(2) アパレル企画実習 アパレル生産システム実習 テキスタイル実習A・B ファッショントピック(4)
		建築数学 空間デザイン概論 近代建築史 インテリアデザイン史 建築一般構造 住居計画	建築計画学 インテリアデザイン論 空間デザイン特論A・B 室内環境学(1) 建築構造力学(1)・(2) 都市計画学 西洋建築史	住生活論 居住福祉論 日本建築史 室内環境学(2) 建築設備 建築構造設計演習 建築材料学 都市設計論 造園学 インテリア材料学 建築法規 建築構造力学演習
研究演習科目	入門演習	基礎演習	環境デザイン演習	卒業研究演習 卒業論文・制作
研修科目			環境デザイン特別研修A・B 環境デザイン学外研修A・B	

*各コースの必修科目については、課程表で確認してください。

食環境栄養学科

青字は必修科目

		1年	2年	3年	4年
学科基礎科目		基礎化学 食環境論 基礎有機化学	分析化学	医療統計学 情報処理	管理栄養士特論A・B 管理栄養士特論C・D 栄養教育実習(事前事後指導を含む)
展開科目	生活環境学 基礎科目		衣生活概論 住居学概論(製図を含む)	家庭電気・機械 被服製作実習	生活経営学(家庭経済学を含む)
			保育学(実習及び家庭看護を含む)		
			現代家族論(家族関係学を含む)		
	専門基礎分野	社会・環境 と健康	社会保健学 公衆衛生学(1)(2)		
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学(1) 生化学(1) 病原微生物 解剖生理学(2) 解剖生理学実験(1) 病理学総論 生化学(2) 生化学実験(1)	解剖生理学実験(2) 病理学各論 生化学実験(2)	
	専門分野	食べ物と健康	食品学(1)(2) 食品学実験(1) 調理学 調理学実験(1)(2)	食品学実験(2) 調理学実験(3)	食品衛生学 食品衛生学実験 食品機能学
		基礎栄養学	基礎栄養学 栄養学実習		
	専門分野	応用栄養学	応用栄養学総論 母子栄養学 加齢栄養学	応用栄養学実習	
		栄養教育学	栄養教育原論	栄養教育各論 栄養教育論実習 栄養カウンセリング論 栄養カウンセリング実習	
	専門分野	臨床栄養学	栄養アセスメント論 臨床栄養管理論 疾病別栄養管理論 疾病別栄養管理実習	臨床栄養学 臨床栄養学実習	臨床栄養学特論
		公衆栄養学		公衆栄養学(1)	公衆栄養学(2) 公衆栄養学実習
	社会環境系科目	給食経営管理論	給食経営管理論	フードマネジメント論 給食経営管理実習	
				学校の食指導法 食教育指導法	
				食システム論	子どもの発達と生活環境
	総合演習			社会心理学概論 臨床心理学概論	
				栄養総合演習	
	臨地実習			臨地実習	
研究演習科目		食環境学演習(1)		食環境学演習(2)	食環境学演習(3) 卒業論文

生活マネジメント学科

2 ファイナンシャルプランナー養成コース 課程表

生活マネジメント学科の学生は、ファイナンシャルプランナー養成コース、教員・公務員養成コースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

科目的★印は必修、◎はコース必修、○は選択必修

学科基礎科目					
学科基礎科目 28単位必修					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生活経営学 ★	332		2		
生活経済学 (1) ★	331	2			
消費者教育論 ★	333			2	
生活情報論 ★	332			2	
消費者政策論 (1) ★	332		2		
生活と法律 (1) ★	331	2			
家族関係学 (1) ★	332		2		
家族福祉学 ★	333			2	
生活統計学 (1) ★	331	2			
情報処理論 ★	332		2		
生活情報システム論 ★	332			2	
情報処理演習 (1) ★	331	1			
情報処理演習 (2) ★	332		1		
生活設計論 ★	332		2		
生活調査法 (1) ★	332			2	

展開科目				
展開科目 合計30単位 (コース基礎科目必修 10単位) (コース共通科目+コース選択科目から20単位選択必修) + 全ての専門教育科目から 7 単位選択必修				
生活環境学基礎科目	授業科目			
	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数		
	332	1年	2年	3年 4年
	衣生活概論	332	2	
	食物学(栄養学・食品学を含む)	332		2
	住居学概論(製図を含む)	332	2	
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	332	2	
	家庭電気・機械	332		2
	被服製作実習	332		2
	調理実習	332		2
	消費者政策論 (2) ○	332		2
	簿記基礎 ○	332		2
	インターネットビジネス ○	332	2	
	Webデザイン演習 ○	332	1	
	生活統計学 (2) ○	332	2	
	ライフコース論 ○	332	2	
	ユニバーサルデザイン論 ○	332		2
	生活と法律 (2) ○	332	2	
	家族法 ○	332		2
	法学概論 ○	332	2	
	経済学概論 ○	332	2	
	情報倫理論 ○	332		2
	プログラミング基礎 ○	332	2	
	インターネットプログラミング ○	333		2

展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
コース共通科目	情報通信ネットワーク論	○	332		2	
	マルチメディア表現技術	○	333		2	
	モデル化とシミュレーション	○	333		2	
	ソーシャルネットワークサービス論	○	332	2		
	衣生活マネジメント論	○	331	2		
	住生活マネジメント論	○	331	2		
	食生活マネジメント論	○	331	2		
	生活マネジメント特論 A	○	333		2	
	生活マネジメント特論 B	○	333		2	
	生活マネジメント特論 C	○	333		2	
ファイナンシャルプランナー養成コース基礎科目	生活経済学(2)	◎	332	2		
	消費マーケティング論	○	332	2		
	商法概論	○	332		2	
	消費者法	○	332		2	
	消費者心理学	○	331	2		
	ファイナンシャルプランニングA	○	333	2		
	ファイナンシャルプランニングB	○	333	2		
	ファイナンシャルプランニングC	○	333		2	
	ファイナンシャルプランニングD	○	333		2	
	ビジネス法務	○	332		2	
ファイナンシャルプランナー養成コース選択科目	消費者行動論	○	332	2		
	消費者商品学	○	331	2		
	消費生活コンサルティング論	○	332	2		
	消費者運動論	○	332		2	
	消費財流通論	○	332	2		
	建築法規	○	332		2	
	環境ビジネス論	○	332		2	
	金融商品学	○	333		2	
	生活リスクマネジメント論	○	333		2	

展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
教員・公務員養成コース基礎科目	男女共同参画社会論	332		2		
	共生社会論	331	2			
	情報社会論(1)	332		2		
	データベース技術	332		2		
	生活調査法(2)	332		2		
	家族関係学(2)	333		2		
	家族支援論	333		2		
	公的扶助論	332		2		
	家族心理学	332	2			
	子どもの発達と生活環境	332	2			
教員・公務員養成コース選択科目	障害者教育論	332		2		
	介護福祉論	332	2			
	行政法	332		2		
	行政学	332		2		
	刑法	332	2			
	国際社会と法	332		2		
	政治学概論	332	2			
	情報社会論(2)	332		2		
	情報職業論	332	2			

研究演習科目							
研究演習科目 5単位必修							
授業科目			科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
入門演習★	331	1		1年	2年	3年	4年
基本演習(1)★	332		332		1		
基本演習(2)★	332		332			1	
専門演習★	333		333				2
卒業論文	333		333				4

生活マネジメント学科

3 教員・公務員養成コース 課程表

生活マネジメント学科の学生は、ファイナンシャルプランナー養成コース、教員・公務員養成コースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

科目的★印は必修、◎はコース必修、○は選択必修

学科基礎科目					
学科基礎科目 28単位必修					
授 業 科 目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
生 活 経 営 学 ★	332		2		
生 活 経 済 学 (1) ★	331	2			
消 費 者 教 育 論 ★	333			2	
生 活 情 報 論 ★	332			2	
消 費 者 政 策 論 (1) ★	332		2		
生 活 と 法 律 (1) ★	331	2			
家 族 関 係 学 (1) ★	332		2		
家 族 福 祉 学 ★	333			2	
生 活 統 計 学 (1) ★	331	2			
情 報 処 理 論 ★	332		2		
生 活 情 報 シ ス テ ム 論 ★	332			2	
情 報 処 理 演 習 (1) ★	331	1			
情 報 処 理 演 習 (2) ★	332		1		
生 活 設 計 論 ★	332		2		
生 活 調 査 法 (1) ★	332			2	

展開科目				
展開科目 合計30単位 (コース基礎科目必修 10単位) (コース共通科目+コース選択科目から20単位選択必修) + 全ての専門教育科目から 7 単位選択必修				
生活環境学基礎科目	授 業 科 目			
	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数		
	1年	2年	3年	4年
	衣 生 活 概 論	332	2	
	食物学（栄養学・食品学を含む）	332		2
	住居学概論（製図を含む）	332	2	
	保育学（実習及び家庭看護を含む）	332	2	
	家庭電気・機械	332		2
	被 服 製 作 実 習	332		2
	調 理 実 習	332		2
	消 費 者 政 策 論 (2) ○	332		2
	簿 記 基 礎 ○	332		2
	インター ネット ビジネス ○	332	2	
	W e b デザイン 演習 ○	332	1	
	生 活 統 計 学 (2) ○	332	2	
	ラ イ フ コ ー ス 論 ○	332	2	
	ユニバーサル デザイン 論 ○	332		2
	生 活 と 法 律 (2) ○	332	2	
	家 族 法 ○	332		2
	法 律 学 概 論 ○	332	2	
	経 済 学 概 論 ○	332	2	
	情 報 倫 理 論 ○	332		2
	プロ グラミング 基 礎 ○	332	2	
	インター ネット プログラミング ○	333		2

展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
コース共通科目	情報通信ネットワーク論	○ 332		2		
	マルチメディア表現技術	○ 333		2		
	モデル化とシミュレーション	○ 333		2		
	ソーシャルネットワークサービス論	○ 332	2			
	衣生活マネジメント論	○ 331	2			
	住生活マネジメント論	○ 331	2			
	食生活マネジメント論	○ 331	2			
	生活マネジメント特論 A	○ 333		2		
	生活マネジメント特論 B	○ 333		2		
	生活マネジメント特論 C	○ 333		2		
ファイナンシャルプランナー養成コース基礎科目	生活経済学(2)	332	2			
	消費マーケティング論	332	2			
	商法概論	332		2		
	消費者法	332		2		
	消費者心理学	331	2			
	ファイナンシャルプランニングA	333	2			
	ファイナンシャルプランニングB	333	2			
	ファイナンシャルプランニングC	333		2		
	ファイナンシャルプランニングD	333		2		
	ビジネス法務	332		2		
ファイナンシャルプランナー養成コース選択科目	消費者行動論	332	2			
	消費者商品学	331	2			
	消費生活コンサルティング論	332	2			
	消費者運動論	332		2		
	消費財流通論	332		2		
	建築法規	332		2		
	環境ビジネス論	332		2		
	金融商品学	333		2		
	生活リスクマネジメント論	333		2		

展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
教員・公務員養成コース基礎科目	男女共同参画社会論	○ 332		2		
	共生社会論	○ 331	2			
	情報社会論(1)	○ 332		2		
	データベース技術	○ 332		2		
	生活調査法(2)	○ 332		2		
	家族関係学(2)	○ 333		2		
	家族支援論	○ 333		2		
	公的扶助論	○ 332		2		
	家族心理学	○ 332	2			
	子どもの発達と生活環境	○ 332	2			
教員・公務員養成コース選択科目	障害者教育論	○ 332		2		
	介護福祉論	○ 332	2			
	行政法	○ 332		2		
	行政学	○ 332		2		
	刑法	○ 332	2			
	国際社会と法	○ 332		2		
	政治学概論	○ 332	2			
	情報社会論(2)	○ 332		2		
	情報職業論	○ 332	2			

研究演習科目							
研究演習科目 5単位必修							
授業科目			科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
入門演習	★	331	1	1	2	3	4
基本演習(1)	★	332		1			
基本演習(2)	★	332			1		
専門演習	★	333				2	
卒業論文		333				4	

環境デザイン学科

×印の科目は、他コースの学生を優先するため、×印コースの学生は履修できない場合があります。

環境デザイン学科の学生は、アパレル・ファッショングース、空間デザインコースのいずれかの履修コースを選択し、それぞれのコースの履修方法に従って授業科目を履修します。1年次4月には、仮コース分けを行います。2年次4月より正式にコースに分かれます。

コース別最低修得単位数

アパレル・ファッショングース	空間デザインコース
学科基礎科目 (必修 13単位) 13単位	学科基礎科目 (必修 9単位) 9単位
展開科目 (必修 19単位) (選択必修 21単位) ※1)	展開科目 (必修 39単位) (選択必修 5単位) ※1)
研究演習科目 (必修 5単位) 5単位	研究演習科目 (必修 5単位) 5単位
上記以外の専門教育科目 12単位 (選択必修 6単位) ※2)	上記以外の専門教育科目 12単位 (選択必修 6単位) ※2)
自由履修 28単位 ※3	自由履修 28単位 ※3
計 98単位	計 98単位

※1 展開科目

選択必修 21単位は、 アパレル系科目☆から履修すること	選択必修 5単位は、 空間デザイン系科目☆から履修すること
---------------------------------	----------------------------------

※2 上記以外の専門教育科目

選択必修 6単位は、 選択必修科目☆から履修すること	選択必修 6単位は、 選択必修科目☆から履修すること
-------------------------------	-------------------------------

※3 自由履修については、大学3ページ参照。

環境デザイン学科

4 アパレル・ファッションコース 課程表

科目名の★印は必修、☆印は選択必修、×印は他コース優先科目

学科基礎科目					
学科基礎科目 13単位必修					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
デザイン基礎実習(1) ★	341	2			
デザイン基礎実習(2) ★	342	2			
造形デザイン実習A ☆	342		2		
造形デザイン実習B ☆	342		2		
造形デザイン実習C ☆	343			2	
色彩美学 ★	342	2			
色彩美学演習 ★	342	1			
カラーコーディネート特別演習 ☆	343		1		
人間工学 ★	342			2	
ユニバーサルデザイン論 ★	342	2			
ユニバーサルデザイン特論 ★	343			2	
消費マーケティング論	303			2	
消費者心理学	303			2	
消費財流通論	303			2	
インターネットビジネス	303			2	

展開科目					
展開科目 合計40単位					
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
現代家族論(家族関係学を含む)	302			2	
生活経営学(家庭経済学を含む)	302			2	
衣生活概論 ×	302		2		
食物学(栄養学・食品学を含む)	302			2	
住居学概論(製図を含む)	302			2	
保育学(実習及び家庭看護を含む)	302		2		
家庭電気・機械	302			2	
被服製作実習 ×	302			2	
調理実習	302			2	
アパレル構成学 ★	342	2			
着心地の科学 ★	342		2		
アパレル生産システム ★	343			2	
テキスタイル材料学(1) ★	342		2		
テキスタイル材料学(2) ★	342		2		
アパレル管理学 ★	343				2
ファッショングデザイン論 ★	342	2			
服飾文化史 ☆	343			2	
ファッショングビジネス ☆	342			2	
ファッショング調査法 ☆	343			2	
生活情報論 ☆	343			2	
アパレル環境学実験 ☆	342		2		
テキスタイル材料学実験 ☆	343			2	

授業科目		科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
アパレル系科目	アパレル管理学実験 ☆	343				2
	ファッショントレーニング(1) ★	342		1		
	ファッショントレーニング(2) ☆	343			1	
	アパレル企画実習 ☆	343			2	
	アパレル生産システム実習 ☆	343			2	
	テキスタイル実習A ☆	343			1	
	テキスタイル実習B ☆	343			1	
	コンピュータパターンメーキング ☆	343				1
	バーチャルファッショントレーニングA ☆	342		1		
	バーチャルファッショントレーニングB ☆	342		1		
	人体とパターンメーキング ★	342	2			
	ドレーピングの基礎 ☆	342		1		
	ファッショントレーニング(1) ★	341	2			
	ファッショントレーニング(2) ☆	342		2		
空間デザイン系科目	ファッショントレーニング(3) ☆	342		2		
	ファッショントレーニング(4) ☆	343			2	
	ファッショントレーニングビジネス演習 ☆	343			1	
	アパレル品質管理演習 ☆	343			1	
	建築数学	342	1			
	空間デザイン概論	341	2			
	住居計画	342	2			
	住生活論	343			2	
	建築計画学	342		2		
	居住福祉論	343			2	
	インテリアデザイン論	342		2		
	空間デザイン特論A	342		2		
	空間デザイン特論B	342		2		
	日本建築史	343			2	
	西洋建築史	343		2		
	近代建築史	342	2			

授業科目		科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
空間デザイン系科目	インテリアデザイン史	342	2			
	室内環境学(1)	342		2		
	室内環境学(2)	343			2	
	建築設備	343			2	
	建築一般構造	342	2			
	建築構造力学(1)	342		2		
	建築構造力学(2)	342		2		
	建築構造設計演習 ✗	343			1	
	建築材料学	343			2	
	建築材料学実験 ✗	343			2	
	都市計画学	342		2		
	都市設計論	343			2	
	造園学	343			2	
	インテリア材料学	343			2	
空間デザイン系科目	建築法規	343			2	
	建築施工	343				2
	測量実習 ✗	343			2	
	空間デザイン基礎製図 ✗	341	2			
	空間デザイン基礎実習 ✗	342	2			
	空間デザイン実習(1) ✗	342		2		
	空間デザイン実習(2) ✗	342		2		
	空間デザイン実習(3) ✗	343			2	
	空間デザイン実習(4) ✗	343			2	
	インテリア空間デザイン実習(1) ✗	343			2	
	インテリア空間デザイン実習(2) ✗	343			2	
	空間CAD実習(基礎)	342		2		
	空間CAD実習(3D) ✗	343			2	
	建築構造力学演習 ✗	343			1	
	室内環境学演習 ✗	343				1
	建築学演習 ✗	343				1

研究演習科目

研究演習科目 5 単位必修

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
入門演習★	341	1			
基礎演習★	341		1		
環境デザイン演習★	343			1	
卒業研究演習★	343				2
卒業論文・制作☆	343				6

研修科目

授業科目	科目分類番号	開講基準年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
環境デザイン特別研修A	342		2		
環境デザイン特別研修B	342		2		
環境デザイン学外研修A	342		1		
環境デザイン学外研修B	342		1		

環境デザイン学科

5 空間デザインコース 課程表

科目名の★印は必修、☆印は選択必修、×印は他コース優先科目

学科基礎科目				
学科基礎科目 9単位必修				
授業科目	科目番号	開講基準年次及び単位数		
		1年	2年	3年
デザイン基礎実習(1) ★	341	2		
デザイン基礎実習(2) ★	342	2		
造形デザイン実習A ☆	342		2	
造形デザイン実習B ☆	342		2	
造形デザイン実習C ☆	343			2
色彩学 ★	342	2		
色彩学演習 ★	342	1		
カラーコーディネート特別演習 ☆	343		1	
人間工学 ★	342			2
ユニバーサルデザイン論 ☆	342	2		
ユニバーサルデザイン特論 ☆	343			2
消費マーケティング論	303		2	
消費者心理学	303		2	
消費財流通論	303		2	
インターネットビジネス	303		2	

展開科目				
展開科目 合計44単位 必修 39単位 選択必修 5単位 上記以外の専門教育科目から12単位 (選択必修6単位含む)				
生活環境学基礎科目 アパレル系科目	授業科目		開講基準年次及び単位数	
	科目番号	開講基準年次	1年	2年
	現代家族論(家族関係学を含む)	302		2
	生活経営学(家庭経済学を含む)	302		2
	衣生活概論	302		2
	食物学(栄養学・食品学を含む)	302		2
	住居学概論(製図を含む) ×	302		2
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	302		2
	家庭電気・機械	302		2
	被服製作実習	302		2
	調理実習	302		2
	アパレル構成学	342	2	
	着心地の科学	342		2
	アパレル生産システム	343		2
	テキスタイル材料学(1)	342		2
	テキスタイル材料学(2)	342		2
	アパレル管理学	343		2
	ファッショングデザイン論	342	2	
	服飾文化史	343		2
	ファッショングビジネス	342		2
	ファッショング調査法	343		2
	生活情報論	343		2
	アパレル環境学実験 ×	342		2
	テキスタイル材料学実験 ×	343		2
	アパレル管理学実験 ×	343		2
	ファッショングデザイン画(1) ×	342		1

授業科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
アパレル系科目	ファッショントデザイン画(2) ✕	343		1		
	アパレル企画実習 ✕	343		2		
	アパレル生産システム実習 ✕	343		2		
	テキスタイル実習A ✕	343		1		
	テキスタイル実習B ✕	343		1		
	コンピュータパターンメーキング ✕	343			1	
	バーチャルファッショントコーディネートA ✕	342		1		
	バーチャルファッショントコーディネートB ✕	342		1		
	人体とパターンメーキング ✕	342	2			
	ドレーピングの基礎 ✕	342		1		
	ファッショント造形実習(1) ✕	341	2			
	ファッショント造形実習(2) ✕	342		2		
	ファッショント造形実習(3) ✕	342		2		
	ファッショント造形実習(4) ✕	343			2	
空間デザイン系科目	ファッショントビジネス演習 ✕	343		1		
	アパレル品質管理演習 ✕	343			1	
	建築数学 ★	342	1			
	空間デザイン概論 ★	341	2			
	住居計画 ★	342	2			
	住生活論 ☆	343		2		
	建築計画学 ★	342		2		
	居住福祉論 ☆	343			2	
	インテリアデザイン論 ☆	342		2		
	空間デザイン特論 A ★	342		2		
	空間デザイン特論 B ☆	342		2		
	日本建築史 ☆	343			2	
	西洋建築史 ☆	343		2		
	近代建築史 ★	342	2			
	インテリアデザイン史 ☆	342	2			
	室内環境学 (1) ★	342		2		

授業科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
空間デザイン系科目	室内環境学 (2) ★	343			2	
	建築設備 ★	343			2	
	建築一般構造 ★	342	2			
	建築構造力学 (1) ★	342		2		
	建築構造力学 (2) ★	342		2		
	建築構造設計演習 ☆	343			1	
	建築材料学 ★	343			2	
	建築材料学実験 ☆	343			2	
	都市計画学 ★	342		2		
	都市設計論 ☆	343			2	
	造園学 ☆	343			2	
	インテリア材料学 ☆	343			2	
	建築法規 ★	343			2	
	建築施工 ★	343			2	
	測量実習 ☆	343			2	
	空間デザイン基礎製図 ★	341	2			
	空間デザイン基礎実習 ★	342	2			
	空間デザイン実習 (1) ★	342		2		
	空間デザイン実習 (2) ★	342		2		
	空間デザイン実習 (3) ☆	343			2	
	空間デザイン実習 (4) ☆	343			2	
	インテリア空間デザイン実習(1) ☆	343			2	
	インテリア空間デザイン実習(2) ☆	343			2	
	空間CAD実習 (基礎) ★	342		2		
	空間CAD実習 (3D) ★	343			2	
	建築構造力学演習 ☆	343			1	
	室内環境学演習 ☆	343				1
	建築学演習 ☆	343				1

研究演習科目						
研究演習科目 5 単位必修						
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	
入門演習 ★	341	1				
基礎演習 ★	341		1			
環境デザイン演習 ★	343			1		
卒業研究演習 ★	343				2	
卒業論文・制作 ☆	343				6	

研修科目						
授業科目	科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数				
		1年	2年	3年	4年	
環境デザイン特別研修 A	342		2			
環境デザイン特別研修 B	342		2			
環境デザイン学外研修 A	342		1			
環境デザイン学外研修 B	342		1			

6 食環境栄養学科 課程表

科目名の★印は必修、☆印は選択必修

学科基礎科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
基礎化学生	★	352	2			
基礎有機化学	☆	351	2			
分析化学	☆	351		2		
食環境論	★	352	2			
医療統計学		351		2		
情報報処理		351		1		
栄養教育実習(事前事後指導を含む)		351			2	
管理栄養士特論A	★	352			2	
管理栄養士特論B	★	352			2	
管理栄養士特論C		351			2	
管理栄養士特論D		351			2	

展開科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
授業科目			1年	2年	3年	4年
現代家族論(家族関係学を含む)		351		2		
生活経営学(家庭経済学を含む)		351			2	
衣生活概論		351		2		
住居学概論(製図を含む)		351		2		
保育学(実習及び家庭看護を含む)		351		2		
家庭電気・機械		351			2	
被服製作実習		351			2	
社会保健学	★	353		2		
公衆衛生学(1)	★	353		2		
公衆衛生学(2)	★	353		2		
病原微生物学	★	353		2		
解剖生理学(1)	★	353	2			
解剖生理学(2)	★	353		2		
解剖生理学実験(1)	★	353		1		
解剖生理学実験(2)	★	353			1	
病理学総論	★	353		2		
病理学各論	★	353			2	
生化学(1)	★	353	2			
生化学(2)	★	353		2		
生化学実験(1)	★	353		1		
生化学実験(2)	★	353			1	
食品学(1)	★	353	2			
食品学(2)	★	353		2		
食品学実験(1)	★	353	1			
食品学実験(2)	★	353		1		
食品衛生学	★	353			2	

授業科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
専門基礎分野	食品衛生学実験 ★	353		1		
	調理学	353	2			
	調理学実習(1) ★	353	1			
	調理学実習(2) ★	353	1			
	調理学実習(3) ★	353		1		
	食品機能学	353		2		
専門分野	基礎栄養学 ★	353	2			
	栄養学実習 ★	353	1			
	応用栄養学総論 ★	353		2		
	母子栄養学 ★	353		2		
	加齢栄養学 ★	353		2		
	応用栄養学実習 ★	353		1		
	栄養教育原論 ★	353		2		
	栄養教育各論 ★	353		2		
	栄養教育論実習 ★	353		1		
	栄養カウンセリング論 ★	353		2		
	栄養カウンセリング実習 ★	353		1		
	臨床栄養学 ★	353		2		
	栄養アセスメント論 ★	353		2		
	臨床栄養管理論 ★	353		2		
	疾病別栄養管理論 ★	353		2		
	疾病別栄養管理実習 ★	353		1		
	臨床栄養学実習 ★	353		1		
	臨床栄養学特論	353			2	
	公衆栄養学(1) ★	353		2		
	公衆栄養学(2) ★	353			2	
	公衆栄養学実習 ★	353			1	
	給食経営管理論 ★	353		2		
	フードマネージメント論 ★	353			2	

授業科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
専門分野	給食経営管理実習 ★	353		1		
	学校の食指導法	351			2	
	食教育指導法	351			2	
	食システム論	351		2		
	子どもの発達と生活環境	351			2	
	社会心理学概論	351		2		
社会環境系科目群	臨床心理学概論	351		2		
	栄養総合演習 ★	353			2	
	臨地実習 ★	353				4

研究演習系科目群						
研究演習系科目群 3単位必修						
授業科目		科目 分類 番号	開講基準年次及び単位数			
			1年	2年	3年	4年
食環境学演習(1) ★	353	1				
食環境学演習(2) ★	352				1	
食環境学演習(3) ★	352					1
卒業論文	351					8

1 中高免教職課程について

[1] 教職課程とは？

中学校・高等学校の教員になるためには、それぞれの教育職員免許状が必要であり、その取得のためには、教育職員免許法及び同法施行規則等に定められた課程を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。

本学では、教育職員養成課程として、教員を希望する者のために教職課程を設けています。ただし、真に教員を志す者は、常に学識を鍛磨し、人格の陶冶、正しい判断力の育成を心がける必要があるので、堅い決意をもって臨んでください。したがって、単に資格だけ欲しいという者や、免許状を持っていればいつか役に立つだろうというような安易な気持ちで教育職員免許状の取得を考えている者は、本来の意義から言って教職課程を履修すべきではありません。

本学の中高免教職課程を履修することにより授与される免許状の種類等は、次の通りです。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科
文学部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語 国 語 書 道
	英語英米文化学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	外国語コミュニケーション学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語 英 語
	音楽芸術学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	音 楽 音 楽
生活環境学部	生活マネジメント学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭 情 報
	環境デザイン学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
	食環境栄養学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家 庭 家 庭
国際情報学部	国際情報 学科	グローバル スタディーズコース	社 会 地理歴史 公 民
		メディアスタディーズコース	情 報
人間科学部	現代子ども学科	中学校教諭一種免許状	英 語
	多元心理学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	社 会 公 民
	コミュニティ福祉学科	高等学校教諭一種免許状	福 祉
薬学部	薬学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	理 科 理 科

[2] 教職課程の履修に必要な単位

教育職員免許状を取得するためには、基礎資格として学士の資格を有することが必要です。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。

その上で、教職課程の履修には教育職員免許法施行規則に定める、次の4種類の科目の修得が必要です。最低修得単位数は教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数であり、本学で修得しなければならない単位数については後掲の表を参照してください。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数	
	中一種	高一種
①教科に関する科目	2 0	2 0
②教職に関する科目	3 1	2 3
③教科又は教職に関する科目	8	1 6
④教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8
合 計	6 7	6 7

1) 教科に関する科目

生活マネジメント学科

○中一種免「家庭」

法定基準 免許法施行規則に定める科目区分	単位数	左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
		必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	20	生活経済学(1)	1年	2	生活経済学(2)	2年	2
		生活経営学	2年	2	男女共同参画社会論	2年	2
		家族関係学(1)	2年	2	ライフコース論	2年	2
		消費者政策論(1)	2年	2	共生社会論	1年	2
		生活設計論	2年	2	家族関係学(2)	3年	2
		消費者教育論	3年	2	消費者法	3年	2
		生活情報論	3年	2			
被服学（被服製作実習を含む。）		家族福祉学	3年	2			
		衣生活概論	2年	2	衣生活マネジメント論	1・2年	2
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		被服製作実習	3年	2	ユニバーサルデザイン論	3年	2
		食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2	食生活マネジメント論	1・2年	2
住居学		調理実習	3年	2			
		住居学概論（製図を含む）	2年	2	住生活マネジメント論	1・2年	2
保育学（実習を含む。）		保育学（実習及び家庭看護を含む）	2年	2	子どもの発達と生活環境	2年	2

生活マネジメント学科

○高一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	20	生活経済学(1)	1年	2	生活経済学(2)	2年	2
		生活経営学	2年	2	男女共同参画社会論	2年	2
		家族関係学(1)	2年	2	ライフコース論	2年	2
		消費者政策論(1)	2年	2	共生社会論	1年	2
		生活設計論	2年	2	家族関係学(2)	3年	2
		消費者教育論	3年	2	消費者法	3年	2
		生活情報論	3年	2			
		家族福祉学	3年	2			
		衣生活概論	2年	2	衣生活マネジメント論	1・2年	2
		被服製作実習	3年	2	ユニバーサルデザイン論	3年	2
被服学（被服製作実習を含む。）		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	3年	2	食生活マネジメント論	1・2年	2
		調理実習	3年	2			
		住居学概論（製図を含む。）	2年	2	住生活マネジメント論	1・2年	2
		保育学（実習及び家庭看護を含む。）	2年	2	子どもの発達と生活環境	2年	2
		家庭電気・機械	3年	2			
家庭電気・機械及び情報処理		情報処理演習(1)	1年	1			

生活マネジメント学科

○高一種免「情報」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
情報社会及び情報倫理	20	情報社会論(1)	2年	2	情報社会論(2)	3年	2
		情報倫理論	3年	2			
		情報処理論	2年	2	プログラミング基礎	1年	2
		情報処理演習(1)	1年	1			
		情報処理演習(2)	2年	1			
		情報システム論	3年	2			
		データベース技術	3年	2			
		情報通信ネットワーク論	3年	2			
		インターネットプログラミング	3年	2			
		マルチメディア表現技術	3年	2	* CG論	2年	2
情報通信ネットワーク（実習を含む。）		モデル化とシミュレーション	3年	2	Webデザイン演習	2年	1
					ソーシャルネットワークサービス論	2年	2
		情報職業論	2年	2	インターネットビジネス	2年	2
マルチメディア表現及び技術（実習を含む。）							
情報と職業							

備考：*は国際情報学科 開設科目

環境デザイン学科 アパレル・ファッショングース

○中一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
20	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2	生活情報論	3年	2
		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2			
		アパレル構成学	1年	2	アパレル生産システム	3年	2
		着心地の科学	2年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2
		ファッショング造形実習(1)	1年	2	アパレル管理学	4年	2
	被服学（被服製作実習を含む。）	テキスタイル材料学(1)	2年	2	ファッショングデザイン論	1年	2
					ファッショング調査法	3年	2
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	3年	2			
		調理実習	3年	2			
		住居学概論（製図を含む）	3年	2	建築計画学	2年	2
	住居学				居住福祉論	3年	2
					近代建築史	1年	2
					室内環境学(1)	2年	2
		保育学（実習及び家庭看護学を含む。）	2年	2			

環境デザイン学科 アパレル・ファッショングース

○高一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
20	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2	生活情報論	3年	2
		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2			
		アパレル構成学	1年	2	アパレル生産システム	3年	2
		着心地の科学	2年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2
		ファッショング造形実習(1)	1年	2	アパレル管理学	4年	2
	被服学（被服製作実習を含む。）	テキスタイル材料学(1)	2年	2	ファッショングデザイン論	1年	2
					ファッショング調査法	3年	2
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	3年	2			
		調理実習	3年	2			
		住居学概論（製図を含む）	3年	2	建築計画学	2年	2
	住居学（製図を含む。）				居住福祉論	3年	2
					近代建築史	1年	2
					室内環境学(1)	2年	2
		保育学（実習及び家庭看護学を含む。）	2年	2			
	家庭電気・機械及び情報処理	家庭電気・機械	3年	2			
		バーチャルファッショングコーティネートA	2年	1			
		バーチャルファッショングコーティネートB	2年	1			

環境デザイン学科 空間デザインコース

○中一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
被服学（被服製作実習を含む。）	20	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2	生活情報論	3年	2
		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2			
		衣生活概論	2年	2	アパレル生産システム	3年	2
		被服製作実習	3年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2
					アパレル管理学	4年	2
					ファッショングデザイン論	1年	2
					ファッショング調査法	3年	2
		食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2			
		調理実習	3年	2			
		住居計画	1年	2	建築計画学	2年	2
住居学	10	インテリアデザイン論	2年	2	居住福祉論	3年	2
		空間デザイン基礎製図	1年	2	近代建築史	1年	2
					室内環境学(1)	2年	2
					空間デザイン基礎実習	1年	2
		保育学（実習及び家庭看護学を含む。）	2年	2			

環境デザイン学科 空間デザインコース

○高一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
被服学（被服製作実習を含む。）	20	生活経営学（家庭経済学を含む）	3年	2	生活情報論	3年	2
		現代家族論（家族関係学を含む）	3年	2			
		衣生活概論	2年	2	アパレル生産システム	3年	2
		被服製作実習	3年	2	テキスタイル材料学(2)	2年	2
					アパレル管理学	4年	2
					ファッショングデザイン論	1年	2
					ファッショング調査法	3年	2
		食物学（栄養学・食品学を含む）	3年	2			
		調理実習	3年	2			
		住居計画	1年	2	建築計画学	2年	2
住居学（製図を含む。）	10	インテリアデザイン論	2年	2	居住福祉論	3年	2
		空間デザイン基礎製図	1年	2	近代建築史	1年	2
					室内環境学(1)	2年	2
					空間デザイン基礎実習	1年	2
		保育学（実習及び家庭看護学を含む。）	2年	2			
家庭電気・機械及び情報処理	2	家庭電気・機械	3年	2			
		空間CAD実習（基礎）	2年	2			

食環境栄養学科

○中一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	20	生活経営学（家族経営学を含む）	4年	2			
被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	2~4年	2			
		被服製作実習	3年	2			
		衣生活概論	2年	2			
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		基礎栄養学	1年	2			
		応用栄養学総論	2年	2			
		食品学(1)	1年	2			
		食品学(2)	1年	2			
住居学		調理学	1年	2			
保育学（実習を含む。）		調理学実習(1)	1年	1			
		調理学実習(2)	1年	1			
		食環境論	1年	2			
		食品衛生学	3年	2			
		住居学概論（製図を含む）	2年	2			
		保育学（実習及び家庭看護を含む）	2・3年	2			

食環境栄養学科

○高一種免「家庭」

法定基準		左記に対応する本学開設授業科目、開講基準年次及び単位数					
免許法施行規則に定める科目区分	単位数	必修科目	学年	単位	選択科目	学年	単位
家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	20	生活経営学（家族経営学を含む）	4年	2			
被服学（被服製作実習を含む。）		現代家族論（家族関係学を含む）	2~4年	2			
		被服製作実習	3年	2			
		衣生活概論	2年	2			
食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）		基礎栄養学	1年	2			
		応用栄養学総論	2年	2			
		食品学(1)	1年	2			
		食品学(2)	1年	2			
住居学（製図を含む。）		調理学	1年	2			
保育学（実習及び家庭看護を含む。）		調理学実習(1)	1年	1			
家庭電気・機械及び情報処理		調理学実習(2)	1年	1			
		食環境論	1年	2			
		食品衛生学	3年	2			
		住居学概論（製図を含む）	2年	2			
		保育学（実習及び家庭看護を含む）	2・3年	2			
		家庭電気・機械	3年	2			
		情報処理	3年	1			

2) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科 目	左項の各科目に含めることが必要な事項	単位数		1 年	2 年	3 年	4 年	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	2				必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	学校と教育の歴史	2				必修
	・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある児童、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		発達と学習	2				必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論 障害者教育論	2				必修 選択
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	中12 高 6	教育課程論		2			必修
	・各教科の指導法		家庭科指導法 A 家庭科指導法 B 家庭科指導法 C	4				必修 選択必修 選択必修 ※ 1
	・道徳の指導法		情報科指導法	2				必修
	・特別活動の指導法		道徳教育の理論と方法 特別活動の指導法		2			※ 2 必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法の理論と実践 教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む）	2				必修 必修
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法		生徒指導の理論と方法		2			必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2				必修
教育実習	中 5 高 3		教育実習 A 教育実習 B				5 3	選択必修 ※ 3
教職実践演習	2		教職実践演習（中高）				2	必修

備考 1：教育実習の履修以前に、教育実習を除く教職に関する科目の必修科目を履修しておくこと（「教職実践演習」を除く）。後述〔3〕(8)を参照してください。

2：※ 1は、取得希望する免許教科の「××科指導法」を履修方法に従い、中一種においては 6 単位、高一種においては 4 単位（後述〔3〕(8)を参照してください。）を必修。他の免許教科の「××科指導法」を「教職に関する科目」として使用することはできません。

3：※ 2 は、中一種においては必修、高一種においては選択。

4：※ 3 は、後述の〔3〕を参照してください。

3) 教科又は教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
				1 年	2 年	3 年	4 年	
教科又は教職に関する科目		高 16 中 8	道徳教育の理論と方法 情報教育論			2		備考 2
					2			

備考 1：教育職員免許法施行規則で定められた、免許状取得に必要な最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位として使用することができる。ただし、他の免許教科のために設けられている「教科に関する科目」と「教職に関する科目」の単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位に使用することはできない。

2：「道徳教育の理論と方法」は、高一種においては、自由選択。中一種においては、「教科又は教職に関する科目」として使用することはできない。

4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
			1年	2年	3年	4年	
・日本国憲法	2	日本国憲法	2				必修
		健康科学	2				必修
		スポーツ・アンド・エクササイズA	1				これら 7科目より 1科目 選択必修
		スポーツ・アンド・エクササイズB	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズC	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズD	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズE	1				
・体育	2	スポーツ・アンド・エクササイズF	1				
		スポーツ・アンド・エクササイズG	1				
・外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションA(1)	1				必修
		英語コミュニケーションA(2)	1				
・情報機器の操作	2	情報リテラシー	2				必修

〔3〕教育実習

教職に関する科目の一つである教育実習は、教育現場における体験を通じて、教育についての深い理解と強い熱意をつちかい、真によき教育者としての素地をつくることを目的として行われます。実習生は、実際に教壇に立つとともに、生徒へのさまざまな指導、学級の経営と管理、校務などの実習を行います。

教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 中学校免許取得のためには、「教育実習A」5単位（実習は原則として3週間4単位と事前・事後指導1単位）、高等学校免許取得のためには、「教育実習B」3単位（実習2週間2単位と事前・事後指導1単位）または「教育実習A」のいずれかの履修が必要です。
- (2) 実習先は、原則として中学校または高等学校、あるいはその両方です。いずれの場合も、本学で取得できる中学校・高等学校のすべての免許に有効です。
- (3) 複数の教科の免許を取得しようとする場合にも、実習はいずれかの教科で1回行えば十分です。
- (4) 教育実習は、実習校の協力を得て行われるもので、実習生は、実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (5) 教育実習に先立って、教育実習履修申込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で教育実習を希望する者は、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください。
- (6) 教育実習期間の前後に数回の事前・事後指導を行います。また、教育実習後には、所定のレポートを提出しなければなりません。教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出も含まれます。
- (7) 教育実習は教員を志す者にのみ認められます。教育実習を希望する者は、教員採用試験（愛知県・名古屋市など）を受験することを原則とします（中学校・高等学校が実施する事前指導で、教員採用試験を受けない学生は実習をとりやめるように言われたケースがあります）。また、教育実習や教員採用試験の時期は企業などへの就職活動の時期と重なりますが、企業などへの就職活動についての配慮はいっさい認められませんので、注意してください。
- (8) 教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、教育実習の履修以前に、教育実習を除く「教職に関する科目」の必修科目をすべて履修していかなければなりません（「教職実践演習」を除く）。また、取得希望する免許教科の「××科指導法」を、中一種においては6単位、高一種においては4単位を履修していかなければなりません。なお、教育実習への準備を十分に行うために「××科指導法」が選択必修の場合であっても、全て履修することを強く推奨します。
- (9) 教育実習では実際の授業の場で生徒に指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、以下に示す「1. 教職に関する科目に関する条件」と「2. 教科に関する科目に関する条件」の両方を満たす場合に教育実習の履修を認めることにしています。なお、履修カルテ等によって教育実習に向けた準備状況を把握し、不十分であると判断された学生には課題への取り組みを義務づけます。改善が見られない場合は履修を認めないこともあります。

1. 「教職に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 原則として、教育実習履修前年度終了時までに必修科目をすべて履修し、かつ、18単位以上取得していること。ただし、「各教科の指導法」に関する科目（××科指導法）は、教育実習で担当する科目に関するもののみをこの条件の対象科目とする。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

* 留学等によって、①の条件を満たすことができない学生は次のように対応する。留学へ行く場合は、4年次（薬学部6年次）卒業までに教職課程に必要な単位をすべて取得できる見込みがある場合にのみ、4年次（薬学部6年次）における教育実習履修を認めることとする。その際、原則として、教育実習履修前年度末までに、教職に関する科目6科目以上を履修し、12単位以上（○○科指導法Aまたは○○科指導法を含む）を取得していることを条件とする。

2. 「教科に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ① 教育実習前年度終了時点における教育実習で担当する科目の教科に関する科目のGPAが2.5以上であること。
- ② キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「専門科目」（教育実習で担当する科目）の得点率が50%以上の結果を一度以上、得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。
- ③ 教科の専門的知識・技能があると認められる資格等を取得していること。

英語：英検2級以上、TOEIC500点以上、TOEFL470点以上、またはこれらと同等以上の資格のいずれか

家庭：消費者力検定「応用コース」3級以上

情報：ITパスポート試験、基本情報技術者試験、マルチメディア検定エキスパートのいずれかに合格していること

音楽：音楽芸術学科が主催する定期演奏会の出場経験、またはそれと同等以上と認められる演奏会への出場経験

理科：薬学共用試験に合格していること

その他、各学科から提案のあった資格、入賞経験等を有し、大学教職課程委員会が認めた場合。

* 上記1、2の条件は、編入生、科目等履修生に関しては、理科のみ2015年度教育実習から、他の教科は2013年度教育実習から、この条件を適用している。ただし、学内模試を受験できない等の事情がある編入生、科目等履修生は、課題に取り組ませた上で、学力確認試験等を実施して、教育実習履修の可否を判断するものとする。

[4] 「介護等体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、中学校教諭の免許状を取得しようとする場合に、特別支援学校および社会福祉施設等で7日間以上にわたる「介護等体験」を行うことが必要です。大学が斡旋する施設等に行って所定の活動を行う必要があります。大学による斡旋は、3年次に行う予定です。説明会等を2年次から行いますので注意してください。ただし、すでに介護等体験にあたる資格を有している者は、体験をする必要がない場合がありますので、履修支援センターで相談してください。

なお、3年次の夏休みを中心とした時期に介護等体験の予定が入りますので、この時期には海外語学研修等に参加することはできません。また、その他のいかなる予定も介護等体験の日程が決まってから計画するようにしてください。

ただし、原則として、正式な授業と認められるもの（例：集中講義、幼稚園教育実習、病院及び薬局実務実習など）及び、学科の専門領域と密接に関連があり、かつ、教育実習に向けた準備の上でも有益であると考えられる学科主催の公式行事である場合、また、履修要覧で定めている「欠席」とみなさな

い場合の条件、大学9頁〔5〕②eに該当する可能性があり、「配慮すべき日数」が数日に留まるものの場合には日程調整を行います。日程が明確となっている場合は、所定の期日までに申告してください。

なお、「配慮すべき日数」が数日に留まるもののうち当該学科からの要請によって大学教職課程委員会が承認した場合は、決められた期日までに申し出たことにより日程調整を行うことがあります。学科の行事等が予定されている場合は自学科の教員と自学科担当の教職課程担当教員に相談してください。

ただし、施設や学校の受け入れ側の都合で、希望に添う日程に調整することは保証できませんので、ご承知ください。

〔5〕教職課程関係の連絡とスケジュール

教職課程の履修に関しては、教育実習、介護等体験、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）によって行いますので、教職課程の履修を希望する者はつねに注意してください。なお、教職課程に関する質問や相談は、履修支援センターで受け付けます。

教職課程に関して、4年間の主なスケジュールは次の通りです。

1年次	4月 12月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内） 教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
2年次	10月 10月 11月 12月	介護等体験申込み（中学校免許状取得希望者） 教職課程履修申込みオリエンテーション（履修希望者全員） 学内模試（各自申込） 教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
3年次	4月 4月・5月 5月～6月 7月～ 8月～12月 10月 12月 12月	教育実習履修（次年度）申込みオリエンテーション及び介護等体験日程調整 学内模試（各自申込） 教育実習希望校への内諾依頼 介護等体験事前指導（全2回） 介護等体験 第1回教育実習事前指導：全学 学内模試（各自申込） 教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
4年次	4月～5月 4月・5月 5月中旬 5月～6月 7月上旬 7月中旬 8月 9月 11月 3月（学位記授与式当日）	第2～7回：学部別教育実習事前指導 学内模試（各自申込） 名古屋市教育委員会採用試験説明会 教育実習A（原則として3週間）、教育実習B（2週間） ＊一部の学校では9月～10月になります 教育実習事後指導 教員採用試験・一次試験（愛知県・名古屋市他全員受験） 教員採用試験・二次試験（愛知県・名古屋市他） 教員免許状一括申請学内申込み 教員免許状申請書類記入 免許状交付

＜教員採用試験模擬試験＞

本学では、中高免教職課程において教育実習を行う者は、教員採用試験を受験することを原則とします。これは教育委員会から、教育実習の受け入れ条件として教員になる希望を持って、採用試験を受験することが条件として示されているためです。この条件は、教育現場において授業を担当する以上、しっかりとした専門的な知識技能と教職への希望を持って子どもへの指導にあたって欲しいという教育現場からの声を反映させたものであると本学では理解しています。そのため、2年次12月から4年次5月にかけて、キャリア・アップ講座に設けられている模擬試験（学内模試）を受験すること

を推奨しています。教員採用試験は、試験範囲が広く、長期的な展望を持って準備しないと、合格は容易ではありません。長期的な学習計画を立て、模擬試験をペースメーカーとして、教育実習と採用試験に備えてください。

注1) 教員採用試験対策講座受講者は、専門科目の模擬試験が受験できます。詳しくはキャリア・アップ講座の窓口にお問い合わせください。

<教員採用試験>

公立中学校・高等学校の教員採用試験は、毎年夏に行われます。前述のように、本学では、教員採用試験の受験を教育実習を行うための条件にしています。また、多くの教育委員会で、教育実習の期間前や期間中に教員採用試験受験申し込み締め切りを設定しているため、教育実習前に教員採用試験の受験申し込みを済ませてください。なお、私学の教員採用については、応募や試験の形態が様々であるため、私学教員を志す場合は、各自で情報収集をするとともに、各学部・各学科担当の教職課程委員の教員に相談をしてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[6] 課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、2,500円（3年次後期）、16,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

また、中学校教諭の免許状取得希望者は、介護等体験履修費として2,000円（2年次後期）、8,600円（3年次前期）、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

2 栄養教諭について

[1] 栄養教諭とは？

栄養教諭は、食のスペシャリストである管理栄養士・栄養士と、教育の専門家である教師の資質を合わせ持つ資格です。

栄養教諭の役割は、子どもたちが将来にわたって健康に生活できるように、学校給食を活用して栄養や食事に関して指導教育し、「食に関する望ましい習慣や自己管理能力」を身に付けさせるとともに、他の教科、家庭、地域とも連携して食に関する啓発を行うことです。そのため、栄養教諭を志す者は、管理栄養士としての専門性を確実に身につけたうえで、栄養の専門性と教員としての学識を練磨し人間性の育成を心がける必要があります。免許状を持っていればいつか役に立つだろうというような安易な気持ちで栄養教諭を履修することは許されません。

免許法施行規則に定める科目区分	最低修得単位数
①栄養に係る教育に関する科目	4
②教職に関する科目	18
③教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8
合 計	30

[2] 栄養教諭の履修に必要な単位

栄養教諭の免許状を取得するためには、学士の学位（食環境栄養学科を卒業したものに授与される学位）と管理栄養士養成課程修了（+栄養士免許）を基礎資格として必要とします。つまり、所定の単位を修得して本学を卒業することが前提となります。その上で、「栄養に係る教育に関する科目」4単位、「教職に関する科目」26単位、「教育免許法施行規則第66条に定める科目」8単位を修得することが必要です。

1) 栄養に係る教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等 各科目に含める必要事項	左記に対応する開設授業科目 単位数	開講基準年次及び単位数				履修方法
		1年	2年	3年	4年	
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項 ・食に関する指導の方法に関する事項	4	食教育指導法		2		必修
		学校の食指導法		2		必修

2) 教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科 目	左項の各科目に含める必要事項	単位数		1 年	2 年	3 年	4 年	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職入門	2				必修
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	学校と教育の歴史	2				必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		発達と学習	2				必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論		2			必修
	障害者教育論			2				選択
教育課程に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	4	教育課程論			2		必修
	・道徳及び特別活動に関する内容		道徳教育の理論と方法			2		必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動の指導法			2		必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法の理論と実践		2			必修
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		2			必修
生徒指導及び教育相談に関する科目	・生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導の理論と方法			2		必修
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）理論及び方法		教育相談		2			必修
栄養教育実習		2	栄養教育実習（事前事後指導を含む。）				2	必修
教職実践演習		2	教職実践演習（栄養教諭）				2	必修

3) 教育免許法施行規則第66条の6に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		単位数	左記に対応する開設授業科目	開講基準年次及び単位数				履修方法
科 目	左項の各科目に含める必要事項			1 年	2 年	3 年	4 年	
・日本国憲法		2	日本国憲法	2				必修
・体育		2	健康科学	2				必修
			スポーツ・アンド・エクササイズA	1				これら7科目より1科目選択必修
			スポーツ・アンド・エクササイズB	1				
			スポーツ・アンド・エクササイズC	1				
			スポーツ・アンド・エクササイズD	1				
			スポーツ・アンド・エクササイズE	1				
			スポーツ・アンド・エクササイズF	1				
・外国語コミュニケーション		2	英語コミュニケーションA(1)	1				必修
			英語コミュニケーションA(2)	1				
・情報機器の操作		2	情報リテラシー	2				必修

[3] 栄養教育実習

栄養教諭の職務は、学校給食の管理と食に関する指導を一体としています。栄養教諭の配置については、①学校給食の実施が義務とはされていないこと、②現在の学校栄養職員も学校給食実施校のすべてに配置されていないこと、③地方の自主性を尊重するという地方分権の趣旨を踏まえ、地方公共団体が地域の事情等に応じて配置することとしています。したがって、栄養教諭の配置については義務的なものとはされていません。しかし、「食育基本法」の制定（平成17年）や、学校での「食育」の必要性が認知されたことにより、愛知県などで栄養教諭の採用試験が毎年実施されています。

栄養教育実習に関しては、次の点に注意してください。

- (1) 栄養教諭免許取得のためには、栄養教育実習2単位（実習1週間と事前・事後指導1単位）を履修する必要があります。
- (2) 栄養教育実習先は、原則として小学校または中学校です。いずれの場合も指導者には栄養教諭が当たるため、栄養教諭配置がされていないところでは栄養教育実習はできません。
- (3) 栄養教育実習は、実習校の協力を得て行われるもので、実習生は実習校に迷惑をかけることのないよう、しっかりした決意と十分な配慮をもって取り組まなくてはなりません。
- (4) 栄養教育実習に先立って、栄養教育実習履修申し込みオリエンテーションを行います。このオリエンテーションで栄養教育実習についての認識を深め、慎重に検討した上で、栄養教育実習を希望するものは、所定の期間内に必要な書類を添えて履修支援センターに申し込んでください（栄養教育実習等の費用については、後日、学納金の口座から引落しとなります）。
- (5) 栄養教育実習期間の前後に数回の事前指導・事後指導をおこないます。また、栄養教育実習後には所定のレポートを提出しなければなりません。栄養教育実習の履修には、事前指導・事後指導への出席とレポートの提出もふくまれます。
- (6) 栄養教育実習は栄養教諭を志す者のみに認められます。栄養教育実習を希望する者は、教員（栄養教諭）採用試験（愛知県・名古屋市等）を受験することを原則とします。
- (7) 栄養教育実習の際に必要な知識を習得しておくために、栄養教育実習の履修以前に栄養教育実習を除く「栄養に係る教育に関する科目」および「教職に関する科目」の必修科目をすべて履修していかなければなりません。
- (8) 栄養教育実習では実際の授業の場で児童・生徒を指導するため、十分な力量を備えて実習に臨む必要があります。本学では、2013年度入学生より、食環境栄養学科の学科基礎科目および展開科目の必修科目を開講基準年次で単位修得できている場合に、栄養教育実習の履修を認めることとしています。なお、履修状況によって栄養教育実習に向けた準備等が不十分であると判断された場合には、課題への取り組みを義務づけます。改善が見られない場合には履修を認めないことがあります。

「教職に関する科目」に関する条件

次のいずれかを満たすこと。

- ①原則として、教育実習履修前年度終了時までに必修科目すべてを履修しており、「教職に関する科目」のGPAが2.5以上であること。
- ②キャリアアップ講座が実施する教員採用試験模試の「教職科目」（教職教養等の名称）の試験の得点が50%以上の結果を、一度以上得ていること（ただし自宅受験した場合の成績は対象としない）。

[4] 栄養教諭教職課程関係の連絡とスケジュール

栄養教諭教職課程の履修に関しては、栄養教育実習、教員免許状の申請、各種オリエンテーションなど、さまざまな手続きが必要です。これらについての連絡はK-PORT（学生ポータルサイト）によって行いますので、つねに注意を払うようにしてください。なお、教職課程に関する質問や相談は、本部棟3階の履修支援センターで受け付けます。

栄養教諭教職課程に関しての4年間の主なスケジュールは次のとおりです。

1年次	4月 12月	教職課程ガイダンス（新入生オリエンテーション内） 教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
2年次	12月	教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
3年次	4月 5～6月 12月	栄養教育実習（4年次）履修申込みオリエンテーション 栄養教育実習希望校への内諾依頼 教員採用試験オリエンテーション（1・2・3年共通）
4年次	4月～5月 5月～6月または9月～10月 7月上旬または11月上旬 7月中旬 8月 9月 12月 3月	栄養教育実習事前指導 栄養教育実習（1週間） 栄養教育実習事後指導 教員採用試験・一次試験（愛知県） 教員採用試験・二次試験（愛知県） 教員免許状一括申請申込み 教員免許状申請書類記入 免許状交付（栄養士免許交付後）

<教員採用試験>

公立小・中学校の教員採用試験は、毎年夏に実施されています。栄養教育実習を行う者は、採用試験を受験することを原則とします。栄養教諭の採用試験は、地自体によっては、現在の学校栄養職員の採用を優先していることがあります。その場合は実施されている「学校栄養職員」採用試験を受けてください。

<教員免許状の申請>

教員免許状の申請は、大学が一括して愛知県教育委員会に対して行います。4年次の9月に申請手続きを履修支援センター窓口で行います。なお申請時に手数料が別途必要です。期限内に手続きをしない場合は、一括申請から除外されますので、行事予定やK-PORTを十分に注意し、指示に従ってください。

[5] 課程履修費等について

栄養教諭教職課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、14,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料210円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

1 ファイナンシャル・プランナーについて

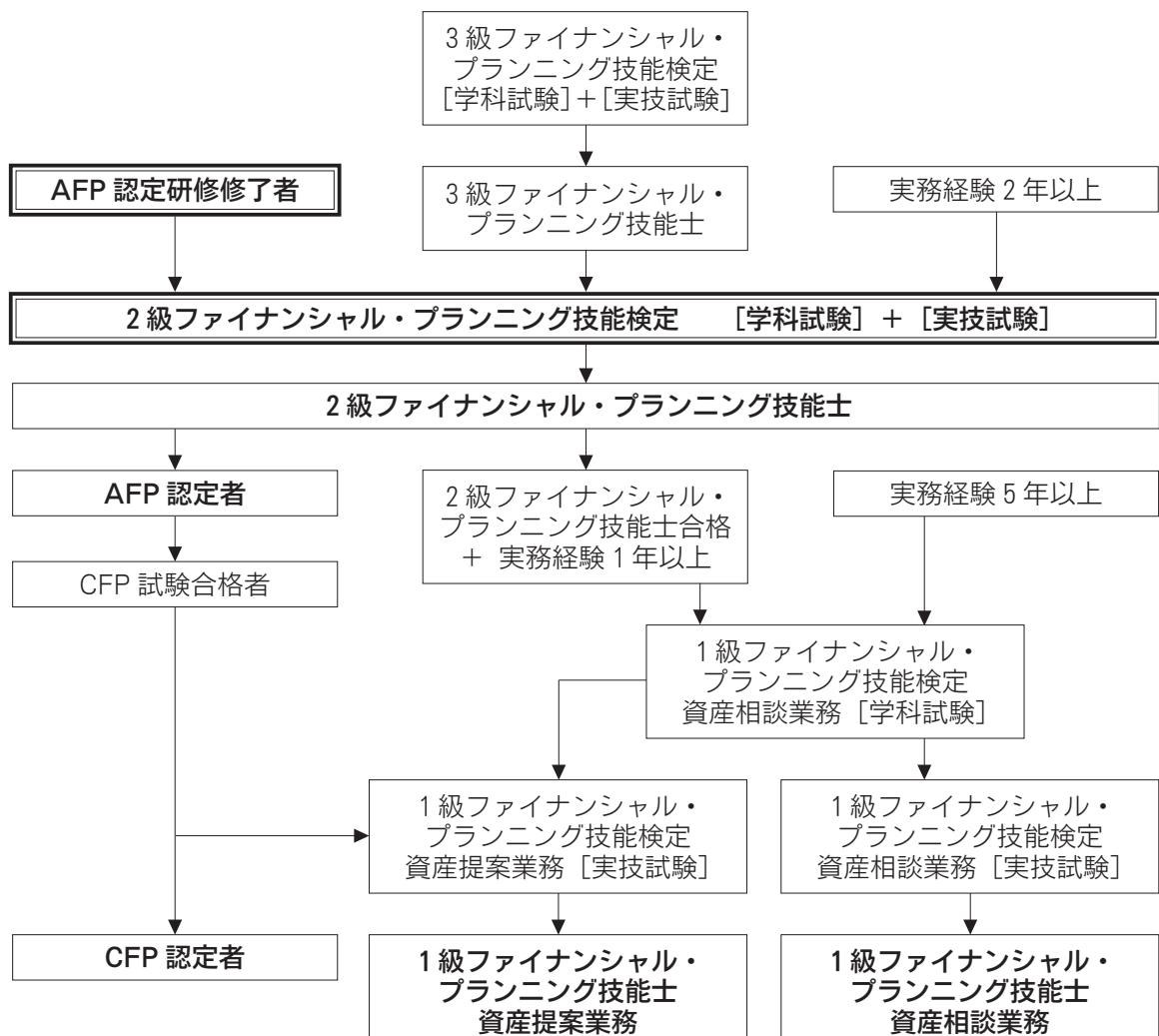
[1] ファイナンシャル・プランナー資格とは？

日本版金融ビックバンに伴う金融商品や資産運用方法の多様化、終身雇用制度の崩壊、退職金や年金への不安といった諸課題を抱える今日、生活者が自己責任のもとに生涯にわたって自らのライフスタイルを実現していく上で、パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの重要性はますます高まってきています。しかし、生活者自身がパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要となる経済・金融・保険・不動産・税金・社会保険制度などについての知識や技術をすべてにわたって身につけることは困難です。ファイナンシャル・プランナーは、こうしたパーソナル・ファイナンシャル・プランニングに必要な包括的かつ専門的な知識・技術を身につけ、生活者の生涯にわたる夢の実現をサポートする「生活設計のアドバイザー」です。近年、銀行・証券・保険などの金融業界における必須資格となってきています。

[2] ファイナンシャル・プランナー資格試験の概要

ファイナンシャル・プランニングに関わる技能検定の体系は下の図に示すとおりで、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会（AFP・CFP）および、社団法人金融財政事情研究会（3級・2級・1級 FP 技能士）の両機関によって運営、実施されています。

生活マネジメント学科のカリキュラムは、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会による認証を受けているため、指定科目的履修、修了により、 AFP 認定研修修了者として、実務経験などの条件無しに AFP（2級 FP 技能検定）受験資格を取得することができます。



[3] AFP 認定研修課程

(1) AFP 認定研修課程の科目構成

AFP 認定研修の修了には、指定科目の履修とともに、模擬的にライフプランを作成する「提案書」の作成と合格（60点／100点以上）を必要とします。特別認定教育機関として、生活マネジメント学科が提供する指定科目とその具体的学習内容は以下の表のとおりです。

生活マネジメント学科開講科目名称	具体的学習内容	開講 学年 学期	単位数
ファイナンシャルプランニングA	ファイナンシャルプランニング基礎 ライフプランニングとリタイアメントプランニング タックスプランニング	2年後期	2
ファイナンシャルプランニングB	金融資産運用設計 リスクと保険	2年後期	2
ファイナンシャルプランニングC	不動産運用設計 相続・事業承継設計	3年前期	2
ファイナンシャルプランニングD	提案書の作成 AFP 資格試験過去問題の研究 AFP 資格試験受験オリエンテーション	3年前期	2

(2) AFP 認定研修課程履修上の注意

AFP 認定研修課程は、2年次後期から3年次前期を通じた1年間の資格課程です。指定4科目の履修においては、必ず2年次後期に「ファイナンシャルプランニングA」「ファイナンシャルプランニングB」の2科目を履修し、それに続けて3年次前期に「ファイナンシャルプランニングC」「ファイナンシャルプランニングD」を履修しなければ、 AFP 認定研修の修了要件を満たすことができません（3年次後期から4年次前期にかけて同様に履修しても可）。

AFP 認定研修課程受講に際しては、事前にNPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会への受講者登録を必要とします。学科が事前に開催する AFP 認定研修課程受講説明会に参加し、必ず協会への受講者登録をしてください。なお、学習効果の観点から、協会よりこの認定研修課程の受講者数が、上限60名と定められているため、 AFP 認定研修課程受講説明会において上限を超える受講希望者があった場合には、選考を行う場合がありますので注意してください。

[4] 資格取得までのスケジュール

当年度夏休前 AFP 認定研修受講説明会、受講者登録

当年度後期 AFP 認定研修カリキュラム受講（2科目）

次年度前期 AFP 認定研修カリキュラム受講（2科目）、提案書の作成

↓

AFP 認定研修修了証発行

2級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験受験申請

2級ファイナンシャル・プランニング技能検定試験受験（9月予定）

[5] 課程履修費について

AFP 認定研修課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、2,000円（2年次後期）、2,000円（3年次前期）です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

2 衣料管理士（テキスタイルアドバイザー：TA）2級について

現代のアパレル製品は、消費者ニーズの高度化、個性化にともない、多様化、複雑化が進んでいます。新しい加工技術や素材の開発は、私たちの生活を潤いある豊かなものへと導いてくれますが、一方で、品質情報の提供不足などが消費者苦情を生み出す誘因となり、経済産業省に寄せられる苦情のうち繊維製品に関するものが実に1/4以上を占めていると言われています。消費者の信頼を得ながら企業が快適で品質の高い製品を開発し、需要や販路を拡大していくためには、消費者の実態とニーズを正しくとらえ、マーケットに即した対応が必要です。こうした要求に応えるためには、アパレルの生産・流通・消費の各段階において、専門知識や技術を身につけ消費者と企業とを結ぶパイプ役を果たすことのできる人材が必要となります。

衣料管理士は、消費者と企業の関係を円滑にする役割を担うために必要な専門知識を有する人に与えられる資格です。この資格を取得することで、テキスタイルおよびアパレル製品を扱う企業や機関において、品質管理、企画、生産、販売、仕入れ、コンサルタント、苦情処理などの分野に活躍の場があり、消費生活の向上と企業の発展に貢献することができます。

環境デザイン学科アパレル・ファッショングース所定の本資格に関する科目（2. 参照）の単位を修得すれば、衣料管理士の資格を卒業時に取得することができます。資格取得を希望する人は、積極的に専門知識の修得に励んでください。

1 資格認定機関

一般社団法人 日本衣料管理協会

（一社）日本衣料管理協会は、経済産業省製造産業局の所管、監督のもとに、衣料管理士養成大学、主要業界団体（テキスタイルメーカー、染色整理業、アパレルメーカー、百貨店、量販店、クリーニング業、行政、検査機関など）、学識経験者、および衣料管理士（TA）会員、繊維製品品質管理士（TES）会員によって構成されています。

2 資格要件カリキュラム

衣料管理士の資格要件のカリキュラムは、生産、流通、消費にわたる幅広いもので、アパレル製品に関して「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の4つの側面から学びます。

以下の表の環境デザイン学科アパレル・ファッショングース所定の開講科目は、すべて衣料管理士2級の資格を取得するための必修科目です。

グループ	環境デザイン学科 アパレル・ファッショングースの開講科目	単位数
材料	テキスタイル材料学(1)	2
	テキスタイル材料学(2)	2
	テキスタイル材料学実験	2
加工・整理	アパレル管理学	2
	アパレル管理学実験	2

グループ	環境デザイン学科 アパレル・ファッショングコースの開講科目	単位数
企画・設計・生産	アパレル企画実習	2
	ファッションデザイン論	2
	アパレル構成学	2
	アパレル生産システム	2
	人体とパターンメーキング	2
	ドレーピングの基礎	1
	アパレル生産システム実習	2
	コンピュータパターンメーキング	1
	バーチャルファッションコーディネートA	1
	バーチャルファッションコーディネートB	1
	色彩学	2
	色彩学演習	1
	着心地の科学	2
	アパレル環境学実験	2
流通・消費	生活情報論	2
	ファッションビジネス	2
	ファッション調査法	2
単位合計		39

※太字はアパレル・ファッショングコースの必修科目です。

3 資格の認定について

上記の所定カリキュラムの単位修得後、卒業時に認定証が交付されます。

4 課程履修費について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、9,700円（2年次前期）です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

5 衣料管理士認定証公布料等について

衣料管理士の資格認定時（卒業時）に認定証交付料、日本衣料管理協会入会費等として15,160円（認定証交付料（税込）7,560円・協会入会費2,000円・協会年会費5,600円）を徴収します。

3 アメニティスペシャリスト(生理人類士2級)について

近年、さまざまな職場や社会全般で「アメニティ」という資格をもった人が活躍しています。「アメニティ」資格とは、あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案・アドバイスを行うことのできる資格です。生活環境、オフィス環境を安全かつ快適にすごすために、色や光、温度などの適切な状態を研究し、その研究の成果を、実際の暮らしと環境に生かす仕事です。「アメニティ」資格を持つことで、高齢者や障害者を含めたあらゆる人、働く人のからだにやさしい環境づくりを追求し、実践しながら社会に貢献できます。

アメニティスペシャリスト（生理人類士2級）とは、人間と環境の快適性（アメニティ）をデザインし、評価できる人材の育成を目指し、日本生理人類学会が認定する資格です。環境デザイン学科に在籍する学生は、所定の単位を修得すれば、在学中に受験することができます。また、生理人類士2級を取得し、日本生理人類学会会員（学生会員）であれば、生理人類士準1級（アメニティコーディネーター）を受験することができます。詳細は、担当教員に確認してください。

1 受験資格要件

受験に際しては、以下の表に示す所定単位を満たしていることが条件になります。受験申込時に、成績単位修得通知表のコピーを添付してください。

2 受験申込手続き

試験は大学で受験できます。申し込み期間、方法については、環境デザイン学科の掲示でお知らせします。受験するために必要な費用は8,000円（テキスト代含む）です。

区分	単位修得要件	授業科目	単位数	区分	単位修得要件	授業科目	単位数
人間科学系科目、生活科学系科目	12単位以上	人間工学	2	行福動祉科系、学系情報処理系、	4単位以上	ユニバーサルデザイン論	2
		消費マーケティング論	2			ユニバーサルデザイン特論	2
		消費財流通論	2			情報リテラシー	2
		衣生活概論	2			ファッショントロイ法	2
		食物学（栄養学、食品学を含む）	2			生活情報論	2
		住居学概論（製図を含む）	2	人文・社会科学系科目	2単位以上	東洋哲学	2
		アパレル構成学	2			西洋哲学	2
		着心地の科学	2			心理学	2
		ファッショントロイ論	2			文化人類学	2
		服飾文化史	2			法学入門	2
		ファッショントロイビジネス	2			社会学入門	2
		アパレル環境学実験	2			消費者心理学	2
		空間デザイン概論	2				
		住居計画	2				
		住生活論	2				
		建築計画学	2				
		居住福祉論	2				
		インテリアデザイン論	2				
		空間デザイン特論A	2				
		室内環境学(1)	2				
		室内環境学(2)	2				
		建築設備	2				
		都市計画学	2				

4 インテリアプランナーについて

インテリアプランナー資格は、(公財)建築技術教育普及センターが認定する民間資格で、インテリアの企画・設計・工事監理に関する専門知識と技能を保証するものです。インテリア設計業務を中心とした仕事を目指す人は、ぜひ取得したい資格です。

インテリアプランナーの資格を得るためにには、(公財)建築技術教育普及センターが実施する試験を受験し、合格し登録を行う必要があります。「学科試験」「設計製図試験」の受験資格は当該年度4月1日現在で満20歳以上の者です。環境デザイン学科に在籍し、下表に定める科目を全て履修した者で、インテリアプランナー試験の合格者は、卒業後2年以上の実務経験を経て、インテリアプランナー登録を受けることができます。

修得しなければならない科目は、以下の表のとおりです。

科 目 名	空間デザインコース
空間デザイン概論	2
近代建築史	2
住居計画	2
建築計画学	2
住生活論	2
室内環境学(1)	2
室内環境学(2)	2
建築設備	2
建築一般構造	2
建築構造力学(1)	2
建築構造力学(2)	2
建築構造設計演習	1
建築材料学	2
建築法規	2
建築施工	2
人間工学	2
ユニバーサルデザイン論	2
色彩学	2
インテリアデザイン論 *	2
インテリアデザイン史 *	2
空間デザイン基礎製図	2
空間デザイン基礎実習	2
空間デザイン実習(1)	2
空間デザイン実習(2)	2
インテリア空間デザイン実習(1) *	2
インテリア空間デザイン実習(2) *	2
	合計37単位以上

※ 1 太字は空間デザインコースの必修科目です。

※ 2 履修上の注意

①空間デザインコースの学生で、インテリアプランナーの資格を取得希望の者は、上記科目一覧を見て、履修計画をたてるこ。

②*印の科目はインテリアプランナーを受験するための推奨科目です。

5 一級建築士、二級建築士、木造建築士について

[1] 建築士資格について

建築士の資格は、建築士法に定められた国家資格です。一定の規模・構造・機能の建物になると、有資格者でなければ設計や工事監理を行うことができません。従って、住宅・建築関連の業界で活躍するためには必須の資格となります。建築士には、一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士の5種類があり、それぞれ業務の範囲が定められています（建築士法第三条、第二十条の二および第二十条の三）。詳しくは（財）建築技術教育普及センターのホームページを参照してください（<http://www.jaeic.or.jp>）。

[2] 受験資格について

環境デザイン学科で空間デザインコースを履修し、以下の表に定めた二級建築士および木造建築士試験受験資格取得のための単位修得要件に従って指定科目を修得すると、二級建築士および木造建築士試験の受験資格を得ることができます。

また、環境デザイン学科で空間デザインコースを履修し、下表に定めた一級建築士試験受験資格取得のための単位修得要件に従って指定科目を修得し、さらに建築に関する実務経験2年で、一級建築士試験の受験資格を得ることができます。

指定科目の分類	指定科目名	単位数	単位修得要件	
			一級建築士	二級建築士
①建築設計製図	空間デザイン基礎製図	2	7 単位以上	5 単位以上
	空間デザイン基礎実習	2		
	空間デザイン実習(1)	2		
	空間デザイン実習(2)	2		
	空間デザイン実習(3)	2		
	空間デザイン実習(4)	2		
	インテリア空間デザイン実習(1)	2		
②建築計画	住居計画	2	7 単位以上	7 单位以上
	住生活論	2		
	建築計画学	2		
	居住福祉論	2		
	都市計画学	2		
	都市設計論	2		
	近代建築史	2		
	日本建築史	2		
	西洋建築史	2		
③建築環境工学	室内環境学(1)	2	2 単位以上	2 单位以上
	室内環境学(2)	2		
④建築設備	建築設備	2	2 单位以上	2 单位以上

指定科目の分類	建築材料	単位数	単位修得要件	
			一級建築士	二級建築士
⑤構造力学	建築構造力学(1)	2	4 単位以上	6 単位以上
	建築構造力学(2)	2		
⑥建築一般構造	建築一般構造	2	3 単位以上	
	建築構造設計演習	1		
⑦建築材料	建築材料学	2	2 単位以上	
	建築材料学実験	2		
⑧建築生産	建築施工	2	2 単位以上	1 単位以上
⑨建築法規	建築法規	2	1 単位以上	1 単位以上
⑩その他	空間デザイン概論	2		
	空間デザイン特論A	2		
	空間デザイン特論B	2		
	ユニバーサルデザイン論	2		
	人間工学	2		
	測量実習	2		
	空間CAD実習（基礎）	2		
	空間CAD実習（3D）	2		
総計			60単位以上	40単位以上

※ 1 太字の科目は空間デザインコースの必修科目です。

※ 2 空間デザインコースの学生は、コースの卒業要件をみたすことで、二級建築士および木造建築士の受験資格単位修得要件をみたすことができます。

〔3〕受験資格について

受験資格を得ると、国土交通大臣が行う一級建築士試験、都道府県知事が行う二級建築士試験または木造建築士試験を受験することができます。受験の際には「**一級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書**」または、「**二級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書**」を大学（学生生活支援センター）でお申込みください。

6 商業施設士について

商業建築士の資格は(社)商業施設技術者・団体連合会が認定する民間資格で、商業施設の運営・管理系统、店舗の構成・デザインなどを総合的に計画して、監理まで行うことのできる技能を保証するものです。

環境デザイン学科に在籍し、単位修得要件をみたした者は、その年度の2月もしくは10月に実施される講習会を受け、商業施設士補となることができます。さらに、商業施設士補となった者は、次の年度に実施される試験に合格すれば、商業建築士になることができます。その際、1次試験が免除されます。修得しなければならない科目は以下の表のとおりです。

区分	授業科目	単位数	単位修得要件
商業一般	ファッショニビジネス	2	4 単位以上
	生活情報論	2	
	住生活論	2	
	空間デザイン概論	2	
商業施設構成計画	色彩学	2	10単位以上
	色彩学演習	1	
	人間工学	2	
	ユニバーサルデザイン論	2	
	ユニバーサルデザイン特論	2	
	住居計画	2	
	建築計画学	2	
	居住福祉論	2	
	空間デザイン特論A	2	
	空間デザイン特論B	2	
	インテリアデザイン史	2	
	室内環境学(1)	2	
	室内環境学(2)	2	
	都市設計論	2	
建築一般及び工事監理・施工	都市計画学	2	4 単位以上
	造園学	2	
	インテリアデザイン論	2	
	日本建築史	2	
	西洋建築史	2	
	近代建築史	2	
	建築設備	2	
	建築一般構造	2	
	建築構造力学(1)	2	
	建築構造力学(2)	2	
設計製図	建築構造設計演習	1	12単位以上
	建築材料学	2	
	建築法規	2	
	建築施工	2	
	建築材料学実験	2	
	測量実習	2	
	空間デザイン基礎製図	2	
	空間デザイン基礎実習	2	
	空間デザイン実習(1)	2	
	空間デザイン実習(2)	2	

※1 太字は空間デザインコース必修科目です。

※2 履修上の注意

- ①空間デザインコースの学生は、コース必修科目と商業一般の区分の中から2単位を履修すれば、3年次の10月に商業建築士補の講習会を受講することができます。
- ②*印の科目は商業施設士を受験するための推奨科目です。

7 管理栄養士について

管理栄養士は、厚生労働大臣の許可を受けて 1) 傷病者に対して療養のために必要な栄養の指導（臨床栄養領域）、2) 個人の身体の状況、栄養状態などに応じた高度の専門的知識及び技能を要する健康の保持・増進のための栄養の指導（公衆栄養領域）、3) 特定多数の人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体状況、栄養状態、利用の状況などに応じた給食管理及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導など（給食経営管理領域）を行う職業です。管理栄養士国家試験に合格する必要があります。

卒業までに修得しなくてはならない科目は、次の表のとおりです。

指定教育内容	単位数 講義又 は演習	本学開講科目	科目形態と単位数 の必修・選択		開講基準年次及び単位数			
			形態	必修	選択	1年	2年	3年
専門基礎分野	社会・環境と健康 人体の構造と機能、 疾病の成り立ち	社会保健学	講義	2		2		
		公衆衛生学(1)	講義	2		2		
		公衆衛生学(2)	講義	2		2		
		病原微生物学	講義	2		2		
		解剖生理学(1)	講義	2	2			
		解剖生理学(2)	講義	2		2		
	食べ物と健康	解剖生理学実験(1)	実験	1		1		
		解剖生理学実験(2)	実験	1			1	
		病理学総論	講義	2		2		
		病理学各論	講義	2			2	
専門分野	基礎栄養学	生化学(1)	講義	2	2			
		生化学(2)	講義	2		2		
		生化学実験(1)	実験	1	1			
		生化学実験(2)	実験	1		1		
		食品学(1)	講義	2		2		
		食品学(2)	講義	2		2		
		食品学実験(1)	実験	1	1			
	応用栄養学	食品学実験(2)	実験	1		1		
		食品衛生学	講義	2			2	
		食品衛生学実験	実験	1			1	
		調理学	講義	2	2			
		調理学実習(1)	実習	1	1			
		調理学実習(2)	実習	1	1			
		調理学実習(3)	実習	1		1		
専門分野	小計	28	10	小計	38			
	栄養教育論	基礎栄養学	講義	2	2			
		栄養学実習	実習	1	1			
		応用栄養学総論	講義	2		2		
		母子栄養学	講義	2		2		
		加齢栄養学	講義	2		2		
		応用栄養学実習	実習	1			1	
	臨床栄養学	栄養教育原論	講義	2		2		
		栄養教育各論	講義	2			2	
		栄養教育論実習	実習	1		1		
		栄養カウンセリング論	講義	2		2		
		栄養カウンセリング実習	実習	1			1	
		疾病別栄養管理論	講義	2		2		
	公衆栄養学	臨床栄養学	講義	2			2	
		栄養アセスメント論	講義	2		2		
		臨床栄養管理論	講義	2		2		
		疾病別栄養管理実習	実習	1		1		
		臨床栄養学実習	実習	1			1	
		公衆栄養学(1)	講義	2		2		
専門分野	給食経営管理論	公衆栄養学(2)	講義	2			2	
		公衆栄養学実習	実習	1			1	
		給食経営管理論	講義	2		2		
		フードマネジメント論	講義	2			2	
	総合演習	給食経営管理実習	実習	1		1		
		栄養総合演習	講義	2			2	
	臨地実習	4	臨地実習	実習	4			4
	小計	32	12	小計	44			
	合計	60	22	合計	82			

※課程履修費等について

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、35,000円（1年次前期）、50,000円（2年次前期）、79,600円（3年次前期）、74,600円（4年次前期）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料340円が必要です。

徴収方法は学納金口座からの引き落としとなります。引き落としに際しては事前にご案内致します。

大学編

諸学
手籍
続上
きの

大学編

取教
扱い事務
の

大学編

履修規
程

学部編

ポリシ
ー

学部編

単卒
位数要件
(詳細)

学部編

制学科
制度
独自の

学部編

科目分類番号

学部編

等共
の課
程表
科目

学部編

専門教育科目の
カリキュラムシリ
および課程表

学部編

教関教
育する取
得に
課程表

学部編

各種資格

8 食品衛生監視員及び食品衛生管理者について

食品衛生監視員について

食品衛生法に規定された職務及び食品衛生に関する指導を行う技術系公務員で、主に国の検疫所と地方自治体の保健所に所属し、食品の検査や食中毒の調査、食品製造業や飲食店の衛生監視、指導及び教育を行います。本学では食品衛生監視員任用資格を取得できます。

食品衛生管理者について

食品衛生法により食品衛生法施行令に指定のある食肉製品製造業など衛生上の考慮を必要とする一定の食品又は食品添加物の製造又は加工を行う営業所で、食品衛生法第48条の規定により、施設における製造もしくは加工の段階で衛生上の考慮を必要とする食品や添加物などにおいて衛生管理を行います。

* 食品衛生監視員任用資格ならびに食品衛生管理者資格は、学科必修科目に加えて指定された化学関連の1科目を履修することが取得要件です。

区分	単位修得要件	授業科目	形態	開講基準年次及び単位数			
				1年	2年	3年	4年
A群：化学関係	A群からD群までそれぞれ1科目以上	★ 基礎化学	講義	2			
		○ 基礎有機化学	講義	2			
		○ 分析化学 *	講義		2		
		★ 生化学(1)	講義	2			
		★ 生化学(2)	講義		2		
		★ 生化学実験(1)	実験		1		
		★ 生化学実験(2)	実験			1	
		★ 解剖生理学(1)	講義	2			
		★ 解剖生理学(2)	講義		2		
		★ 解剖生理学実験(1)	実験		1		
		★ 解剖生理学実験(2)	実験			1	
B群：生物化学関係	A群からE群までの総科目数1科目以上	★ 食品学(1)	講義	2			
		★ 食品学(2)	講義	2			
		★ 食品学実験(1)	実験	1			
		★ 食品学実験(2)	実験		1		
		★ 病原微生物学	講義		2		
		★ 食品衛生学	講義			2	
		★ 食品衛生学実験	実験			1	
		★ 公衆衛生学(1)	講義		2		
C群：微生物学関係	合計22単位以上	★ 社会保健学	講義		2		
		★ 公衆衛生学(2)	講義		2		
		★ 公衆栄養学(1)	講義			2	
		★ 納食経営管理論	講義		2		
		★ 病理学総論	講義		2		
		★ 病理学各論	講義			2	
		★ 基礎栄養学	講義	2			
		★ 応用栄養学総論	講義		2		
		★ 母子栄養学	講義		2		
		★ 加齢栄養学	講義		2		
D群：公衆衛生学関係	合計40単位以上	★ 疾病別栄養管理論	講義		2		
		★ 臨床栄養学	講義			2	
		★ 臨床栄養管理論	講義		2		
		★ 栄養学実習	実習	1			
		★ 応用栄養学実習	実習			1	
		★ 病理学総論	講義		2		
		★ 病理学各論	講義			2	
		★ 基礎栄養学	講義	2			
		★ 応用栄養学総論	講義		2		
		★ 母子栄養学	講義		2		
E群：その他関連科目	合計40単位以上	★ 加齢栄養学	講義		2		
		★ 疾病別栄養管理論	講義		2		
		★ 臨床栄養学	講義			2	
		★ 臨床栄養管理論	講義		2		
		★ 栄養学実習	実習	1			
		★ 応用栄養学実習	実習			1	
		★ 病理学総論	講義		2		
		★ 病理学各論	講義			2	
		★ 基礎栄養学	講義	2			
		★ 応用栄養学総論	講義		2		

備考：★印は、必修科目 ○印の内1科目を履修

* 履修するのが望ましい。

履修要覧

2015年度

2015年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター

〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地

T E L (052) 798-0180

URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>